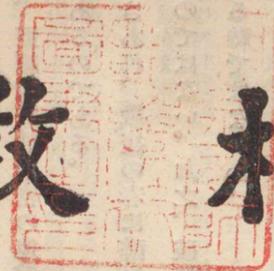
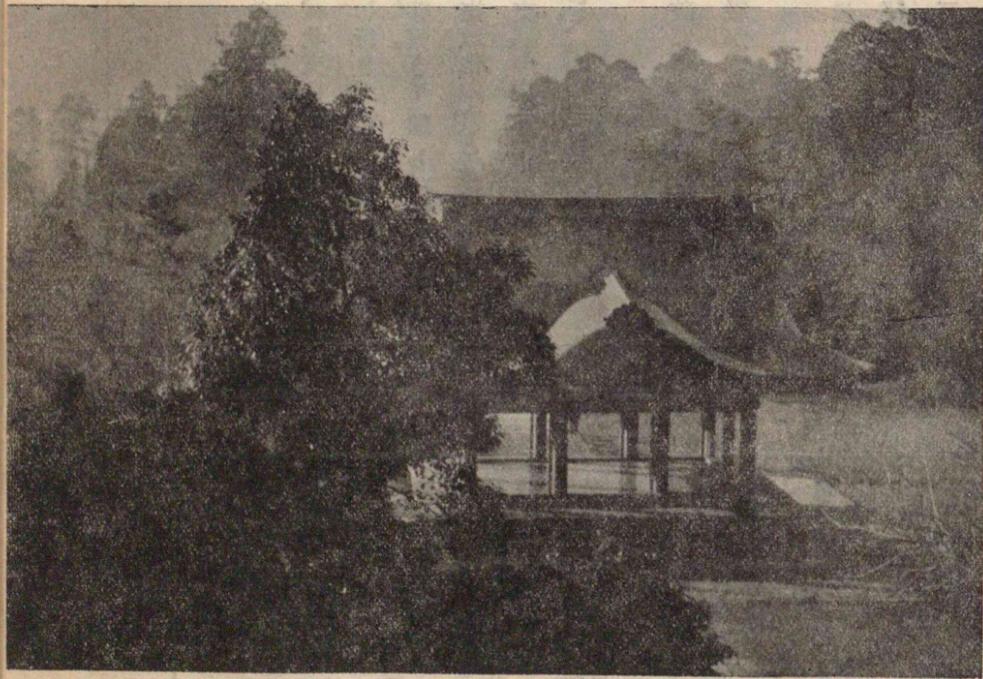


武相教育



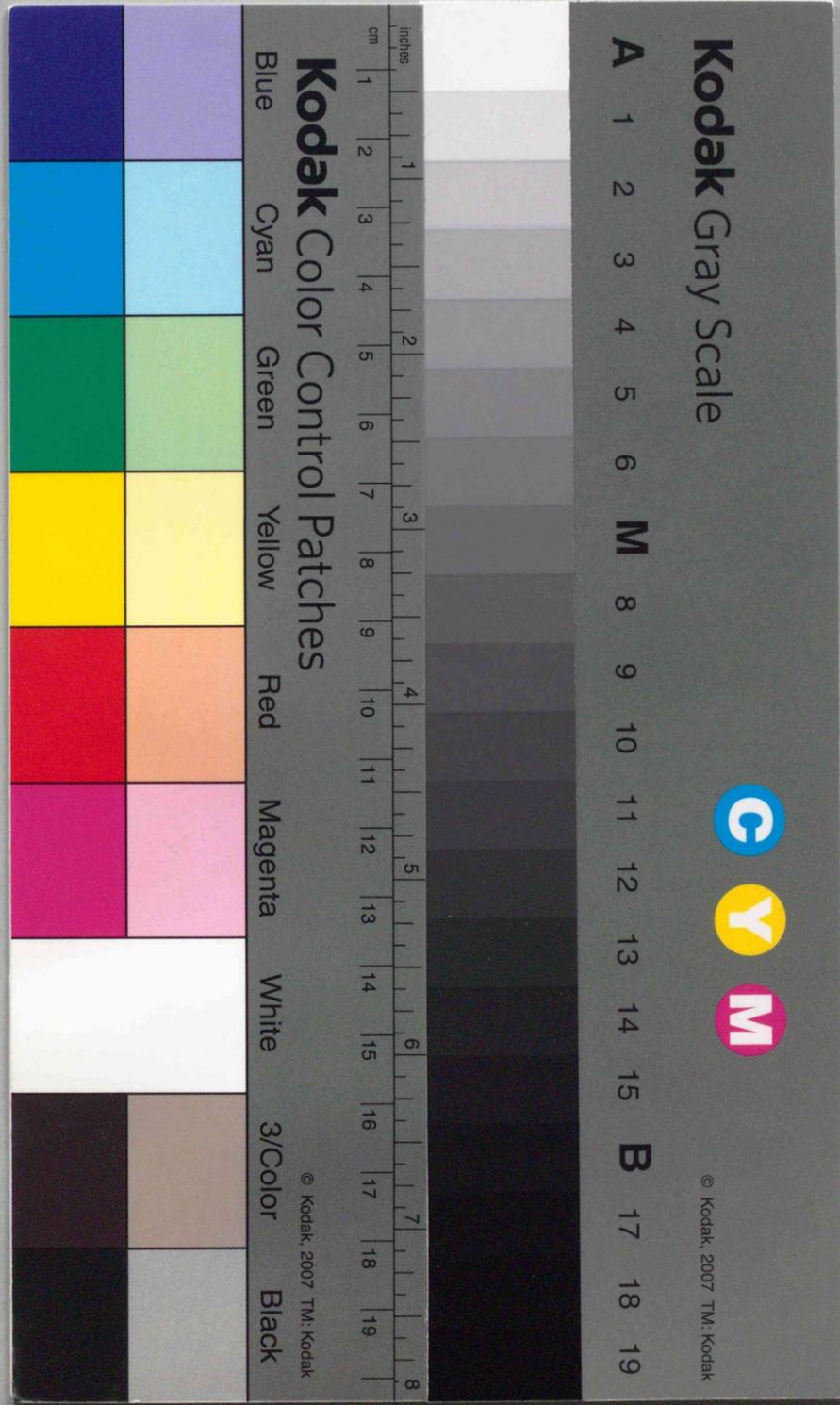
號三十九第 年八九五二元紀

昭和十三年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十三年一月廿五日發行(每月廿五日發行)



員動總神精民國

行發會育教縣川奈神



卷 頭 言

戦へば捷ち攻むれば取る、常勝神の如き皇軍の驚異的戦績は、東亞の空に低迷せる暗雲を、草薙の御劔の草拂ふ如く、北支に中支に山東に次々と、曉天にさし出づる旭日の輝をもて掃淨し行きて熄まず。みつみつし久米の子等が粟生には菲一莖其根が莖其根芽繋ぎて撃ちてし止まむ。その意氣を以て、征邪の矛の止まる處、宣撫教化の力と協せて、迷夢の覺醒新權樹立の機を成し、茲に初めて明朗支那の樂土建設の實を擧げ、亞細亞民族緊密の連繫に依る眞の東洋平和を、今や顯現せむとすつあるのである。

され、戦捷の春に酔ひ痴れるものは誰ぞ。破邪の劔は未だ斂められたのではない。加之、破壊に次いで来る建設の戦が、將に始められつゝある時ではないか。

新しき文化建設への務めは、特に我々教育者にとつて關係深いものがある。事の親疎、直接間接を問ふ勿れ。國を擧げての國民總動員の秋ではないか。固い銃後の護りは、あらゆる方面に亘つての消極的・積極的・精進努力の結晶に據るべきものである。

此の昭和十三年の新春を迎えて惟ふ。我々教育者は其の文化的使命の重大さに、更に一層の精進を期して、幾多英靈が異郷に尊い血汐を染めて購ひ贏た其の成果を、徒に空しくせしめざらむことに努むべきである。

年 頭 所 感

神奈川縣教育會長 中 原 啓 造

榮光漲る戦捷の第一春、昭和十三年の初頭に當り、會員各位と共に謹みて聖壽の萬歳と皇運の隆昌とを壽ぎ奉り、併せて本會の發展と皇軍將兵の武運長久とを祈つて止まない次第であります。

茲に我等は愈々覺悟を新にし益々清新の意氣を以て我が國未曾有の時艱を克服し肇國の現想實現の爲に各自の職分に精勵し、以て報國の誠を竭す決心を致さねばなりません。

思ふに昨年七月北支の一角に端を發した事變は遂に中支、南支に及び、我が誠忠なる將兵は萬難を排して堂々聖戰の陣を進め、連戦連勝、半歳ならずして既に皇化河北五省に及び、首都南京を陥れ全世界を驚倒させ克く國威を中外に宣揚いたしましたのであります。これは偏に上 陛下の御稜威によるところでありますと共に、亦將兵の忠勇義烈、銃後國民の舉國一致の賜に外なりません。

しかし事態は今や一期を劃して此處に新たなる歴史的段階に入ったことを確認しなければなりません。即ち肇國の大理想に基き、東洋永遠の平和を確立する聖戰の第一歩を進めたものでありまして、眞の戦は寧ろこれからであります。これは對外關係に於てのみならず、對内關係に於ても同様であります。此の意味に於て特に職に教育の重責を負ふ者はすでに興された國民精神總動員の一大運動を愈々益々強化して、其の具體的實踐につとめ、一面更に深く國家百年の大計に毅然として思を致さねばなりません。

即ち教育は國家永遠の發展の基礎でありまして、國運今日の隆昌は、萬邦無比の國體に淵源し、教育に關する 勅語に昭示し給へる 聖諭を奉體する我が國教育の普及發達に負ふ所が極めて甚大であると信じます。而して時局が重大であればある程益々國體の本義を明徴にし、之に基いて教學の刷新振

目 次

卷 頭 言	縣教育會長 中原啓造	二
年頭所感	縣教育會長 中原啓造	三
神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して(十三)	聖蹟調査委員 磯貝正	四
中等學校への入學試験に就きて	湘南女學校長 白戸光久	八
支那事變の意義	秦野中學校長 中谷英眞	九
構成教育斷片(3)師範學校訓導	中 村 亨	一三
時局に對する本校教育上の努力點	曾我小學校長 朝倉重治	一四
兒童生徒作品欄	神奈川縣地理巡檢雜感	一五
小田原第一小學校 渡邊涼作	一九	
外に求めて内にかへりぬ	向丘小學校 碓井正九	一九
掛算九々の學習に關する一考察	川崎幸町小學校算術研究部	二二
盆景法地理模型の實際	都田小學校 石井茂	二五
難 助	太刀川總司郎	二九
銃後の護り	川崎櫻本小學校 長野義一	三二
事變下の日本と青砥藤綱	時運に適應せる女教員の誕生	三八
教員共濟會だより	三浦通信	三九
編輯後記		四〇

興を圖ることが喫緊の要事であります。舊臘教育審議會官制が布かるに際し、畏くも優渥なる上諭を拜したのでありますが、聖旨洵に深遠でありまして國家教育の重任に當る者と致しましては眞に恐懼感激に堪へぬ次第であります。當時の木戸文相謹語中にもあります如く我が國の教育制度は明治以來歐米の制度を參酌して發達し國家隆昌の基礎を養ふものとして大なる功績を有するものであります。近時に於ける文物の顯著なる發展と國民精神の昂揚と、内外に於ける情勢の推移とは、今や教育の内容及び制度の各方面に亘つて再檢討を必要とするに至らしたのであります。特に現下歴史的重大時局に當面し、未曾有の飛躍的發展をなさんとする秋に當り、教育に關する勅語の聖旨に基き、教育の内容及び制度に關し國家の必要に應ずる刷新を斷行し、畏くも上諭に示し給へる聖慮に副ひ奉るは吾々の重大なる任務であります。

然も教育内容や制度の刷新も、畢竟教育者自體の自覺と努力とに俟たねばその實現は到底不可能であります。故に教育者自らが克く脚下を照顧することが先づ望ましいのであります。忠孝の臣子を育成するには先づ教師自ら忠孝の臣子でなければなりません。自ら忠孝の臣子たる人格的基礎なく實踐的根據が無ければ、百千の熱辯廣辭も、卓拔なる企劃行事も、教育的見地よりすれば甚だ力弱く意味尠きものであります。かくて忠孝を一貫する仁愛の精神こそ教育者たるもの、第一條件であります。即ち至仁至愛なる大御親の大御心を奉體し之を自家の日常生活に具現し得てこそ、初めて教師たるの名に愧づることなく、國體の本義にも徹し、時艱を克服して八紘一字の大精神を實現することも出来るのであります。

特に本縣の如きは、躍進日本の中でも最も自覺ましく力強い躍進を遂げつゝある所の土地柄でもあり、之が精神的指導者たる教育者は宜しく自ら剛健潤達包容同化の氣風を振作し雄大なる氣宇を長養すると共に、創造練磨を尙び堅忍持久實踐躬行の徳を養ふことが肝要であります。この意味に於きまして、本縣の生める偉人二宮尊徳先生の偉大さを今更に深く敬慕すると共に凡そ教育者たるものは誠にかくありたきものと希ふの情に耐へないのであります。

茲に會員各位の御健勝を祈り、併せて所懐の一端を述べて一層の御協力を切望する次第であります。

神奈川縣下に於ける

明治天皇聖蹟を調査して(十三)

聖蹟調査委員 磯貝正

代銀貳拾匁 九太四本 長四尺 代銀拾貳匁 人足一人半 貨拾匁 八拾七匁

御再幸ニ付所々取繕諸入用

一、御門内段養所之所幕串六本堀立致候ニ付御入用 杉丸太 六本 壹本六匁 代銀三拾六匁 薦人足 壹人 但手間扶持共 貨銀拾壹匁

一、御門内並上道共砂敷平均ニ付御入用薦人足九人 御入用 桐油 貳枚 代銀四拾五匁 大工 一人 貨銀拾八匁 手傳 一人 貨銀拾貳匁 釘 拾匁 代銀三匁五分

明治己年

九月十三日 朝が晴天

今般尙又 御東幸有之神奈川方須藤様、赤木様、石川様畫頃私宅え被爲入御談有之候て今般御東幸之節預置候木品有

之候ニ付右木ニ而御膳水井戸の屋根差建候様尤屋根ハ四分板ニ而取付四尺四方柱ハ貳本建ニ而宜敷、御鳳葺之慮早速取繕候様被付候 下馬下乗之札ニ付御尋御座候ニ付先般御東幸之砌燒棄候由石川様申上候

一、御門内左右御幕張之杭在來用ひ候 一、折釘打付相用可申由 一、先般之通御側取付 一、透間無之様幕張致候ニ付杭打置候様尤御幕ハ神奈川係御廻し之由

一、中坪庭木戸之處松之木後え掛夫同所雪隠手洗水之處迄御幕張相成候由右ニ付幕串打候様、御幕ハ神奈川係ヨリ御廻し之由 一、御膳水ハ宅裏井戸御用ニ相成候由、屋根之儀ハ四分板ニ而四尺四寸ニ拵貳本建候ニ而宜敷由

一、御鳳葺屋根取繕之場ハ八坪下湯殿脇雪隠屋根夫折廻し膳棚上屋根之處迄惣坪七坪之處板葺ニ致し候様 一、大板之間屋根惣坪拾六坪之處葺替被付候 一、梅ノ間雪隠上段々寄候處葺替葺可仕由

九月十四日 朝が晴天

五ツ時頃神奈川方石川金五郎様宅へ御立寄今般御小休所ニ相成候ニ付而ハ土瓶茶碗等用意可仕旨被仰付候ニ付宅ニ有

之分は何れも疵物ニ而御用辨難相成趣申上候處新規買立候様被仰付候尤上品下品・共二品取寄置可申由被仰付開候、御出立相成馬入川邊迄御出張相成候馬ニ而飛乗ニ而被爲入私宅蒲團壹枚宛ニ而馬子元町いとやへ相渡候

- 御馬具櫃 壹 此人足四人
御馬藥籠 壹 同 三人
一桐油箱 三カ 同 三人
一紅手摺提燈 三對 同 六人
一御辛櫃提燈付 一 同 十八人
一御船印 六 同 貳人
一御藥櫃 壹カ 同 三人
一御口香櫃 壹 同 九人
一雨具櫃 同 同 三人
一荷物 五荷 同 五人
一水油籠 四荷 同 四人
一提燈箱 五荷 同 五人
一提燈竿持 同 同 二人
一提燈持 同 同 十六人
一長持 百四十七棒 同 七百七十四人
一竹長持 四十四棒 同 貳百四十四人五分
一箆筒 壹脚 同 三人
一切棒 百五拾九丁 同 四百四十六人
一乘駕籠 貳十八丁 同 百六拾四人
一雨掛 五百拾八カ 同 千三十六人
一竹馬 五十カ 同 五十人
一笠籠 百三拾九カ 同 二百七十八人
外人足百四拾人用意
宿駕籠 七拾丁
前田 井伊 加藤 三家
人足百拾三人
人足貳百四拾壹人 切棒乘駕添人足
高三千四百六拾人五分

人足六百九拾貳人 人足五人ノ内辨當持

合繼人足高 四千貳百九拾貳人五分 警衛兵隊共 御同勢三千三拾三人

奉差上御請書

一、人足四千貳百人 但添人足共 右ハ今般 御東幸御當日宿人足書載之通藤澤宿より戸塚宿・保土ヶ谷宿・神奈川宿・川崎宿合併仕品川宿迄御繼立可仕此度之儀ハ驛難儀深被爲厭人馬賃銀御割増等被仰出別而御當日之義添人足賃銀等過分御下ケ渡相成候程之義ニ付驛郷ニおゐてハ御敷慮難有拜戴仕總而不正勤無之様嚴重取締可申ハ勿論右御連人足高之外一人一疋も用意仕候儀も決而不相成自然心得違有之下民迷惑相成候様之取計仕候節ハ何分之御沙汰被仰付候旨嚴重御連之段承知奉長候依之御請印形奉差上候處如件

明治己年三月

藤澤宿

川崎宿迄 御馬所役人(連印)

前書之通私共ニおゐて厚相辨宿郷役人ハ勿論小前末々迄不正之儀無之様嚴重取締可申旨御連之趣承知仕候依て奥印を以て御請申上候 以上

- 神奈川縣屬司補 渡邊鐵三郎 千坂芳藏 中村民五郎 淺井高之丞 水野文之助

御東幸御道調として會計官出納司・用度司・驛遞司・管轄司・右四司來ル朔日發足ニ而御道中御入用並御先着堂上來睡迄發足東下人々入費等總而御拂向取計候間府藩縣共其前預之宿驛夫々昨年通り取調置右四司出張之上以書面可申

出所

三月

行政官

今般 御再幸御小休等之御用度取調書當日休泊宿驛之最寄次第可差出もの也 已三月晦日 御休泊御小休宿々役中人 用度司

以書狀致啓上候然バ出納司其外四司近々東下御再幸御道調致し候由別紙京都行政官より御連有之候間委細別紙ニ而御承知可有之昨年之通ト申事故御本陣御用意品・御建物・御入用都而當縣ニ而仕拂置追而會計官え御勘定仕上相違候管ニ付管轄司・用度司えハ右之通御引合可被成候就而今般御引合可被成廉ハ全驛遞司ハ人足繼高並供奉之面々旅籠料・人足賃銀等之儀ニ有之候間右宿方調書え當縣出役奥書之上驛遞出納司え差出候得宜敷事ニ有之候 尤右之出役ハ前書四通司通行相分り次第壹兩人出張藤澤驛より川崎宿迄驛々之分一手ニ引受候積ニ付右之趣御差含最早近日之儀ニ候間應々宿役人共え御申付置至急取調置候様敷敷御申付置有之べく候 右爲念庶務兼御談ニ付此段申通候間藤澤宿え御願達可被成候右之段可得御意如此御座候 以上

三月晦日

水野文之助 小池猪之助

- 神奈川宿 富澤 正右衛門様 渡邊鐵三郎様 藤澤宿 田中敬一郎様 尚以川崎・保土ヶ谷宿ハ正右衛門殿戸塚宿鐵三郎殿・敬一郎殿御出張宿役人え御談方御取計可被爲候 以上

宿便申遣候 然ば別紙之通御連有之問書類其儘爲寫取差遣し候 委細右ニて御承知夫々御取調差支無之様致度右之段可申上如此御座候 以上 已四月二日 富澤 正右衛門 保土ヶ谷宿役人中

追而今日通行之伏見練兵所宿割より金札差引致其旨神奈川宿役人え心付ケ有之趣ニ付其心得ニテ御取計有之候様存候

四、鎌倉行幸 (明治六年四月十四日)

御踐祚後操練や演習を天覽又は御統監あらせ給ひしことは屢々であつたけれども、軍隊を攻守兩軍に分けて所謂對抗演習を御統監遊ばされたのは、明治六年鎌倉に於いて行はれた演習が嚆矢である。この鎌倉行幸に際して神奈川停車場より御馬車にて東海道を御通御の折當宿郷部庫次郎宅に御小休遊ばされたのである。

近々鎌倉表え 御行幸ニ付其村々鐵鑓持參往還道場來ル十四日人足差出し御村役人中御附添掃除念入掃除丁場定杭松杉之類長六尺割立貳寸角御打越可被成候勿論兼々御布告之趣も有之間精々御心附可被成候此廻狀刻付を以順達留り御返し可被成候 以上

(明治六年)

四月十日

午後二時發

保土ヶ谷宿 戸長 副長

明治六年四月

十四日

- 御出門 六時三十分 新橋ステーション 御小休 乘御 七里蒸汽車 御小休 神奈川ステーション 一里九町 御馬車 御小休 程ヶ谷 二里九丁 御馬車 御畫 戸塚 澤邊九郎右衛門方

五十丁 御馬
御小休 小菅ヶ谷村 茨木嘉平方
兵隊番兵分附 御覽
御泊 鎌倉 御馬 箱崎博貞方
御泊 鎌倉 御馬 同 人 方

十五日
御泊 鎌倉 御馬 同 人 方
十二時迄兵隊攻方
操練 御覽
午後 鎌倉宮 御拜
十六日
鎌倉宮 御拜

御出馬 八時
舊蹟所々御覽
二里餘 御馬
御 畫 江ノ島 立花屋廣澄方
五十丁 御馬 此間石上川
御泊 藤澤 藤澤山
十七日藤澤
御出車 七時
一里半十二丁 御馬車
御小休 戸塚 澤邊九郎右衛門方
二里九丁 御馬車 菊部庫次郎方
後小休 程ヶ谷 御馬車
一里九丁 御馬車 石井源左衛門方
御 畫 神奈川 乘 御
七里蒸汽車 乘 御
御小休 新橋ステーション
還御

明治六年四月
御 一人
(本陣文書十九)

侍從長 一人
大輔 一人
少丞 一人
侍從 一人
岡田少佐
大河内少佐
近衛ヨリ 二人
侍醫 一人
御藥室 一人
内膳司 四人
内匠司 四人
調度司 一人
御 殿 一人
外 二人
雜掌長 二人
仕人 二人
直丁 二人
外 四十二人
騎兵半隊
近衛
歩兵一小隊
但士官共九十八人

御料御馬車馬 二疋
御料御馬 二疋
供奉馬車馬 二十二疋
騎兵馬 二十疋
(本陣文書十九)

拜啓
鎌倉表 行幸之儀ハ中比過ニも可相成様申上置候處來ル十日と被 仰出候ニ付別紙御道筋御休泊之御次第御廻し申候間何も過日御打合申上置候通りニ御取計可被下候藤澤鎌倉ニ而御二泊江ノ島ニて御畫と申御都合ニ相成申候鎌倉表ニて供奉下宿賄向夜具等之御仕向奉願上候江ノ島ニても

供奉下宿騎兵馬馬繫キ等御取計を以御取立置可被下候過日御騎兵供奉之儀も半途に申上置候得とも騎兵半隊近衛歩兵一小隊供奉被 仰付候様相成申候間下宿等之儀ハ取計を以御仕向置可被下候歩兵之儀ハ凡士官共九十八人位之人員ニ御座候御報迄 敬白
四月十九日
追而 御小休等之御場所ニて歩騎兵之下宿如何様ナル家ニても宜兩三軒御仕向可被下候也
兒 玉
(本陣文書十九)

伊 藤 殿
明治六年四月十四日
主上鎌倉へ
御行幸御用留
保土ヶ谷宿

一、御門左右幕張
一、御馬七疋分飼料藁から麥、たるふすま、ぬか
一、縁側先長進掛間幕串取立幕六張張立之事
一、雪隠障子開戸新規出來
一、表門脇其外幕串取立
一、縁側廻り惣體折釘五本宛打
一、門杭大貫横打折釘三本打
一、貳疋立馬車置所軒高臺丈巾九尺奥行貳間建壁ニ而出來廻り竹ニ而打

一、七疋立馬屋壹棟屋根建壁廻建張
一、道路掃除但掃除丁場持場村々之駱駝申付
一、傳信機え掛り置候わらんじ其外取除く
一、貳階目張
一、道路破損所取繕大石出候處は堀出し
一、御立宿捨軒
但茶畑草盆丈ケ用意尤御立宿ノ書記し差出し置可申事
一、都而去七月御行路之節之通り
一、間之村々えは今般御行路之儀可申廻旨被仰付候
一、御狀壹通内匠司ノ御渡シニ相成
一、御入側縁之處湯殿之境戸仕付候様被仰付候

一、御馬車置所取毀候尤取立入用は假御既入用ニ粗込候様被仰付候御のこし狀ニは馬車置所不用ニは候得共取立候もの故其儘ニ致候得共馬車運動之差障ニ相成ニ付尙取毀候旨申上候様被仰付候
一、十四日第八字頃御馬車ニ而御着間もなく御發車鐵棒行差出候處御車馬驚候に付御棒行は御差止ニ相成付々添えもの計
御預ケ品左ニ

一、ころろ 壹
一、とひん 壹
一、手 桶 壹
一、來十七日御還幸付鐵瓶之湯を沸置候様被仰付候
一、假御既立壹ヶ所 但七疋立
一、御門兩脇物廻し共御幕串
一、紅線付薄線貳枚
右被下切ニ相成候趣鍋田少屬様被仰付候

一、蓋付手桶 壹
一、土 瓶 壹
一、瓦 壺 壹
一、木柄杓 壹
右品は御預ケ被仰付候
一金六圓
是は往還共御小休所被仰付被下置候
一金五拾錢
是は往返共右同斷被仰付ニ付櫻屋豊州屋兩人ニ被下候
(本陣文書十九)

明治六年四月
鎌倉へ御行幸ニ付御建物其外御入用候
鎌倉へ御行幸ニ付保土ヶ谷宿戸長郡部庫次郎宅御小休所被仰付候ニ付御建物其外御入用候
一御馬建 高壹丈 七疋立 壹ヶ所
横八尺
此御入用

一杉木拾六本 但長壹丈貳尺 代金壹圓九拾貳錢
但三寸五分角 壹本ニ付拾貳錢
一杉丸太四本 但長壹丈貳尺 代金參拾六錢
但末口四寸 壹本金九錢
一杉木八本 但長壹丈 代金貳拾四錢
但末口三寸 壹本金八錢
一杉丸太八本 但長壹丈貳尺 代金八拾錢
但末口四寸 壹本金拾錢
一杉木八本 但長壹丈 代金七拾貳錢
但末口三寸 壹本金九錢
一竹五本 但目通四寸廻 代金貳拾五錢 壹本五錢
一籠六拾房 代金三拾錢 壹房金五厘
一高人足拾貳人 代金三圓 壹人貳拾五錢
一苦貳拾入枚 代金壹圓九拾六錢 壹枚 七錢
右合金九圓九拾五錢
一御門兩側並ニ折廻り共長延三拾六間之處幕串取建幕掛
貫打代共
此御入用

一竹貳拾五本 目通六 代金壹圓七拾五錢 壹本七錢
一籠六拾五房 代金三拾貳錢五厘 壹房五厘
一高人足拾貳人 賃銀三圓 壹人貳拾五錢
一杉大貫壹丁 代金四錢
一折釘三本 代金壹錢五厘 壹人三拾錢
一木工貳錢五厘 賃銀七錢五厘
右計金五圓貳拾錢五厘
一御側薄線貳枚新規出來
此御入用
早鳥表貳枚 代金五拾五錢 壹枚貳拾五錢五厘
赤紙貳拾枚 代金三拾三錢五厘四枚 十枚ニ付拾六錢六厘七毛
墨職考人 賃銀三拾錢 但糸代手間扶持共一色
紅絹壹丈 代金七拾五錢 但壹尺七錢五厘
小計金壹圓三拾三錢三厘四毛
御入用
一金貳拾錢 蓋付手桶 壹ツ
一金七錢五厘 土瓶 壹ツ
一金七錢五厘 瓦壺 壹ツ
一金貳錢 木柄杓 壹本
小計金三拾七錢

右之通ニ御座候
明治六年四月
保土ヶ谷宿
戸長 菊部庫次郎
副戸長 小野善右衛門
(本陣文書五六三)

五、鎌倉より御還幸(明治六年四月十七日)
前項の豫定表中にもある如く、四月十七日藤澤御出車にて東京還御の御當宿刈部庫次郎方へ御小休遊ばさる。
但し鎌倉宮御拜に就いては天候の關係上一日繰延べて十六日に行はれて居る。その間の消息は鎌倉宮社務日記に
(明治六年四月)

十五日 雨天
御拜參ニ付番衛一同物談
一、午後第四時供奉宮内省ヨリ報知左之通
本日
鎌倉宮御拜延引被 仰出明十六日江ノ島へ御出馬掛ケ御拜被爲在候條仍此度御達候也
宮 内 省
一、明十六日鎌倉宮御拜被爲在候ニ付神饌料金拾圓玉串等供奉宮内省ヨリ相廻り候事
一、神饌供進之儀兼日設ケ有之儀ニ付今日供進ニ而可然之旨成田宮内大録へ掛合之事
右ニ付午後第五時過供進神饌色目洗米酒海魚大鯛海菜若布野菜蕨菜揃柿
右供進之事
十六日 嵐
一、御拜所御本宮階上御禮設之
一、御參拜午前八時三拾分
玉串御幣料等御奉納之事
一、御拜濟マセラレ當宮御出馬九時比
江ノ島御畫藤澤御一泊之事
かくて十七日は御豫定の如く藤澤午前七時御出車、途中戸塚、保土ヶ谷、神奈川へ御小休の上神奈川より汽車にて御還遊ばさる。

御入用
御入用



中等學校への入學試験に就きて

湘南女學校長 白 戸 光 久

中等學校入學試験制度に就きて武相教育第九十二號に於て佐藤善次郎氏が論じてゐるが私も簡単に率直に論じて見たいと思ふ。

現在の社會状態では中等學校の設備資産の上に差違があり職員素質等に於ても多少の優劣あるのは免れないから又少くとも志願者側の方でさう認めるときに入學生徒の集中率に大小あるは當然な事であり何の不思議もない現象である。しかし之を大處高處から考へれば體格が劣弱なものはいざ知らず健康なもので小學校を卒業したばかりの幼弱な兒童にまで激しい競争試験を課することは忍び得ないやうにも思ふ。中等學校といふものは普通學を一層高尚にして教授し國家の中堅國民を養成する處である。そんな必要な處でさへも競争試験によらなければ入り得ないとは現在の社會制度を呪ひたくなる。由つて之を緩和するには佐藤氏の主張するやうにすることは勿論善い事である。又昨

年本市の小學校長諸君の主張するやうに「縣立諸學校の月謝を現在の約二倍位として經營の剩餘を以て私立中等學校を補助せよ。そして私立中等學校の設備が完成すれば何も縣立に集中することがなくなる」との説も固より道理に適つてゐるのである。私は更に一案を提出して見たいと思ふ。それは縣下の公私立中等學校を整理統合して經營困難なるものは廢校せしめ經營出来るものは希望するならば總べて縣に移管せしめるといふ方法である。甚だ突飛のやうだが縣當局としても經費の問題に歸着するのである。自給自足が出来ない學校ならば縣に移管して縣として大きな負擔ではないと思ふ。又願て學校職員を見れば皆等しく献身的な努力を以て本縣民の子弟を教育してゐるのだ。此點で

は縣立たると公私立たると何等の差違はない。由つて若し希望するならば縣に移管し其職員を縣職員と同等の待遇するのには至當なことだと思ふ。吾人は今更教育の大切なことは喋々する必要はない。斯程まで努力して縣民の子弟を教育してゐながら其學校の設備不十分だといふ理由で報いられないのは遺憾なことである。元來縣下に學校が少いから私立學校が介在する餘地はあるのだ。即ち縣民の教育機關が少いから縣當局は縣民子弟の教育の一部を私立學校の當事者に委託してある形だ。由つて出来るだけ助力するのは至當なことである。

如上の理由である學校に於ては激烈なる競争試験が行はれるといふことは現下の時局としては止むを得ないことであるから試験を行ふとしても努めて公平な考へをして小學校卒業生として相應はしいことを實行したいと思ふ。其ためには昨年行はれた國語一科制は如何にしても不公平であり且六年卒業生には物足りない。又小學校に於て全科を平等に學習して其處に何等區別を置いてゐなかつたものが中等學校に受験せんとして國語一科に力を集注するといふことはあの純真な兒童をして學科の輕重について迷を起さしむる嫌があるのと小學校學科の性質として數學について相當に重要視されてゐなければならぬものを入學試験といふ一つの中間的手段のために一時たりとも無視しなければならぬことは決して公平な處置とは云はれない。加之兒童本來の素質といふ點も考慮しなければならぬ。彼等としても數學を好むもの文學に適するもの等であるであらう。其方面を考へると從來の通り五科目を試験するのは最も公平であるべきだがそのために兒童の負擔の大なるを憂へるなら

ば少くとも國語と算術の二科を課すべきである。即ち文學方面と科學方面とを代表して右の二科を課すれば不足ながら稍や公平を期することをを得るであらう。又兒童としても此兩方面に平等に力を注ぐやうになり偏頗な學習から救はれるのである。

世人は或は國語一科となつて試験地獄が緩和されたやうに考へる人もあるが今日一科となつても五科たりしときと大差がない。若し國語算術の二科とするも亦同じことと思ふ。何故なれば競争試験が存在する以上受験者が最善を盡すのは當然なことであり之が豫習補助者の任にある人は非常な努力を拂ふ様になるのは固よりのことである。要は六年卒業の兒童をして人生の門出に公平な採用法に浴せしめんとする老婆心に外ならぬのである。又世には試験法の改正によつて或は準備時間の制限法によつて兒童の苦痛を緩和しようと思へる人もあるが試験法が改正されるれば兒童側では之に應ずるやう準備するだけで中々緩和されるものではない。次に準備時間の制限のやうなことは一時的な氣休めに過ぎない。本當に激烈な競争試験に出場するためには體力の續く限り或は安全感を得るまでやるであらう。

昨年大阪府でやつたやうに國史一科目を以つてあの六年卒業の兒童の學力を考査しようとするのは吾輩をして言はしむれば言語同斷である。歴史は其性質として暗記すべきことは非常に多い。年月といひ氏名といひ場處といひ原因といひ結果といふ。しかし暗記力は學習の基礎となることには異議はないが六年生のある重要な學課を壓縮して國史一科とするのは決して當を得たものではない。斯の如き爲政者の誤つた考へによつて希望した學校を拒絶される兒童は氣の毒だと思ふ。



支那事變の意義

縣立秦野中學校長 中 谷 英 眞

今次支那事變には宣戰の布告を伴はず従つてその形式上より見れば單なる事變にて戰役と呼ぶことが出来ないがその内容は動員將兵の數から見ても活動區域の廣範な點から見ても戰費の點から見ても將亦目的の崇高な點から見ても遂に日清日露兩役以上のものと謂はなければならぬ。殊にその背後に於ける複雑多岐なる外交關係思想問題等を考慮する時益々その感を深うするのである。日清日露の兩役は謂はば日本一國の安危を意味するに過ぎなかつたが今次事變は正に東洋全體の危急存亡に關する重大意義を有するもので眞に皇國未曾有の難局である。而して此の難局の處理如何はやがて東亞に於ける皇國の地位と日本國民將來の浮沈とに關係するものであるから吾人は能く時局の重大性を認識すると共に確固不拔の覺悟を以て目的の貫徹に邁進しなければならぬ。近衛首相年頭の所感中に吾人は只前進あるのみと云ふ力強い一句があり政府所信の程も明に察知せられるのである。今靜に之等の情勢を觀察する時憂心の勃然として湧き起り黙せんとし能はざるものがある。故に素人たる私が不似合な冒險たることを知りつつも敢て拙文を草して解説を試みんとする次第である。

現地解決不擴大方針を以て臨み極力戰禍の擴大を阻止せんと努めたに拘らず蔣介石は表面和協を圖るを装ひつつも裏面に於て全國の大軍を動員し陣地を強化して只管戰備を整へ七月二十日積極的に攻勢を取り來つたので皇軍は己むを得ず正義の劍を抜いて正當防衛の爲に立上つたのである。之が本事變の發端で最初は二十九軍相手に北支に局限せられてゐたが次で上海に於て大山大尉射殺事件の如き不法を敢行し我が和平解決の精神を没却して砲火に訴へたので終に事變を全面的衝突にまで導いた。斯る全面的衝突は勿論日本の本意では無く反對に蔣介石の徹底せる強硬態度に依つて齎された事は明瞭である。即ち日本は厭々ながら蔣介石の希望に捲込まれたのである。然らば何故に彼が斯くも強硬な態度を取り戰禍の擴大を希望したのであらうか。それには次の如き理由がある。

(一) 支那の立場

昨年七月七日蘆溝橋事件勃發當時日本は飽くまで

部には彼の本心は必ずしも共產主義を謳歌したものではないと辯護する者もあるがその眞偽は暫く問はず彼と蘇聯邦との關係は愈々密接不離となりソ聯邦の後援なくしては彼は何事も爲し得ざる状態であつたことは周知の事實である。

斯る關係に於て彼は國內統一の業を進めんとした如何にして各地に割據せる舊軍閥を南京政府の傘下に集め愛國心の缺如せる一般國民に確固たる國家觀念を注入するかは容易なことでない。今假に忠君愛國を以て國民に呼び掛けんとしても支那には古來嚴然たる正統の君主無く従つて忠君はその意義をなさず又屢々夷狄の侵略を受けながら唯々諾々たりし國民には眞の愛國心が理解されよう筈がない。又假に歴史教育を尊重し過去を知らしめることに依つて愛國心を喚起せんとしても古來幾多の革命は國土の蹂躪と強力者に對する屈從とを教へた點から見ても是亦徒勞に歸する外はない。以上の如く支那民衆に對する指導精神の樹立は恐らく難中の難事と謂はなければならぬ。此に於て蔣介石が苦心慘憺の結果案出した即効的標題が排日主義であつた。即ち彼は臺灣朝鮮關東洲滿洲等が不合理にも日本から掠奪せられ支那の國力が次第に疲弊したのであるから今や支那全土の軍閥國民が國內鬭争を止めて一致協力以て日本に當り失地を回復して國力の隆盛を期しなればならぬと説き幼稚國小學校の兒童より大學生成人の教育に至るまで排日方針を以て一貫し全國民の精神を驅つて日本排斥に向はしめた。而してその効果次第に現はれ年と共に青少年層を風靡するに至り愛國即排日の誤れる信念が普遍化するに至つた。

抑々朝鮮關東洲滿洲等は曩に露國侵略の目標たりし地にて若し日本なかりせば既に露國の飽くなき侵

略に委せられたことは明白にて或は更に支那本土の大部分まで併呑の運命に陥つてゐたことであらう。今日支那が存続し得るは一に正義日本の庇護の賜と謂はねばならぬ。されば支那は日本に對し滿腔の感謝を捧ぐべきが當然なるに拘らず恩に報いるに屢々仇を以てしたので次々に不祥事件を發生し終に今日の結果に立至つたのである。之等の經過を反省せず徒に日本を不義仇敵視して盲目的排日を行ひ而も蔣介石が一般民衆を愛するの眞情より出たものではなくして單に自己一人の權力擁護の爲に斯る大膽無謀なる政策を採用したことは何たる不遜の振舞であらう。又彼の犠牲に供せられた日本に取つては何たる迷惑千萬なことであらう。斯の如き史上類例を見ざる暴虐政策が如何に重大な結果を齎すべきかは自ら明瞭である。

(ウ) 毎日精神 排日教育の結果臆氣ながら一般民衆の愛國心を喚起するに成功し地方軍閥の大部分を自家築籠中のものとせる彼蔣介石は更に主として英國蘇聯邦の後援に頼りて各種對内對外施設の改善を加へ徐々に向上進展を見るに伴ひ増長慢心して從來の排日政策を一轉して毎日精神に躍進せしめるに至つた。即ち二百萬の常備軍は世界無比の偉力であり飛行機八百臺は歐米先進國より購入せる最新鋭のものにて三日に一臺の割合を以て墜落しつつある日本空軍等とは同日の論に非ずと廣言しその他鐵道線路の延長、自動車道路の整頓、各種工場を増築等に就ては全力を擧げて誇張的宣傳を事とし一身の功績を自畫自讚すると共に民心を欺瞞するに努めた。由來支那人は比類稀なる傲慢尊大の民族性を有するに拘らず不幸にして清末以來の對外戰爭は悉く慘憺たる敗北の連続にて未だ曾て自己陶醉の機會を與へ

られたことがない。何たる皮肉であらう。然るに今や蔣介石の力に依り眞實自惚れ得べき時節が到來しつつあるものと誤信し民衆の慢心増長は底止する所を知らず虚勢の赴く處終に日本輕侮の精神を普遍せしむるに至つた。試に昭和十一年初頭以來本事實變發生に至る一年半の期間に於ける日支紛争事件を通過するに五十餘回の多きに及び帝國國旗、軍人、警察官を始め一般邦人小學生に至るまで侮辱の對象たらざるはなく殺害せられた者さへ尠くない。我が國は之等事件に對し忍ぶべからざるを忍び彼等に反省の日の來らんことを願ひて隱忍自重し來つたことが反對に彼等をして日本與し易しと盲信せしめ毎日精神を燃焼せしめるに過ぎなかつた。

加ふるに日本人は傳統的日本精神の命する所に從ひ常に國際交渉に於ては必要以上謙抑卑下の美德を發揮し苟も横紙破り式の態度を示したことが無く又同時に自己の實力は常に過小に提示し苟も支那式誇張宣傳を試みたことが無い。故に支那の實力一が十の如く棒大視せられ日本の實力十が一の如く針小視せられるの奇觀を生じ支那の實力が遙に日本の實力を凌駕するが如く思はるるに至つた。此等の錯覺は獨り支那人のみに止らず英蘇以下支那を援助しつつある列國も同様に日支若し戦はば陸空軍に關する限り支那は相當日本を苦境に立たしめ得べく或は戰勝の名譽をさへかち得る可能性無きにし非ずと想像し暗々裏に支那を煽動したと謂はれる。然ゆるが如き毎日の火中に英蘇より注がれた煽動の油に依つて支那全土は忽ち猛火に包まれて完つた。斯くて盲蛇に怖げざる蔣介石は一舉に日本を打倒し支那全土より日本人を驅逐して失地を回復してその勇名を歴史に轟かさんとする冒險を試みたのである。

(ハ) 長期抗日 更に蔣介石一派最後の手段として若し戦を一舉に制する事が出来ない場合には北支並に全海岸線の廣範なる區域に於て及ぶ限りの抵抗を試み日本軍隊の勢力を各地に分散せしめて奔命に疲れしめ徐々に奥地に退却しつつ長期抗日を繼續せんとする作戦を考へてゐた。所謂消耗戰術、ゲリラ戰術と呼ばれ昔時大ナポレオンを苦めた西國の故智に倣はんとするものである。斯る状態を持續する間に必ずや英米佛蘇以下第三國の干渉を誘致して日本を孤立無援四面楚歌の中に陥れ最後の勝利を獲得せんとするのである。要するに支那は即戰即決又は長期抗日兩様の戦法に依りて必勝の自信を抱いてゐたものと思はれる。

(ニ) ソ聯邦の立場 ソヴェエト聯邦は民族解放の名の下に世界赤化を終局の目標とし時處位に對應して或は金力武力を用ひ宣傳誘惑に依つて恐るべき魔手を伸さんとしてゐる。抑々共產思想は宇宙の眞理人間本來の性向を無視した叛逆者の絶望的妄想にて萬世一系の皇室を戴き八紘一字の大理想を有する我が國體とは絶對に相容れない。由來露國は第十三世紀に於て蒙古人に侵略せられ爾來數百年の長きに亘りその支配を受けたが爲に血液亦混淆して白人種に似ず事物觀察の傾向に於て著しく支那人に類似し時には常軌を逸して恰も白日痴人が夢を説くを思はせるものがある。共產思想は正にそれに屬し之等痴人の夢を以て正常者を誑さんとするのは沙汰の限りであらう。されば今や東亞には日本西歐には獨伊嚴然として相提携し白晝の惡魔を退散せしめんと努めてゐるのである。然れども恒産無く恒心無く國家統制力の薄弱なる地方に於ては時に奇功を奏することもあり得る。殊に思想

傾向まで類似する支那は共產思想宣傳の絶好の場所柄であらう。試に昭和十年夏モスコウに開催せられた國際共產黨第七回大會に於ける決議を見るに「支那に於てはソヴェエト運動の擴大と紅軍戰闘能力の強化とを民衆の反帝運動に結合せしめることに依りて帝國主義的壓迫者就中日本帝國主義より支那民族を解放しなければならぬ。而して諸ソヴェエトは解放闘争に於ける全支國民の統一的中心である……」と記されてゐる。即ち支那共產黨の任務を規定し支那の全勢力を打つて一丸となし以て日本と闘争せよと指令したもので先づ支那を赤色に團結せしめ然る後之を日本に浸潤せしめ混亂に導かんとするのが窮極の目的である。要するにソ聯邦の支那援助は日本に對する間接射撃にて從つて日支の交戦は間接的日ソ交戦を意味する道理である。

思ふに皇國日本は恐らくソ聯邦に取りては氷炭相容れざる對蹠的存在にて最大の苦手であらう。さればこそ彼は陰に陽に百方術策を弄して日本を毀けんと虎視眈々としてゐるのである。若し日本に間隙があれば彼は直接攻勢に出で來るべく寸隙無くば間接射撃に甘んじて適當の時期を待ちつつあるものと見なければならぬ。今次支那事變に際し彼は未だ日本に寸隙を發見し得ないのみならず却つて白國內に崩壞的缺陷を藏するを以て僅に間接射撃の域を脱しないのであるが若し戦局が長引き我が國力に疲弊の兆を現すが如きことがあれば忽ち惡魔は覆面を脱して襲ひ來るであらうことを覺悟しなければならぬ。要するに日ソ間に潜在せる對蹠的關係は支那事變を契機として一時表面化するに至つたが敏捷なる皇軍の戦績に壓倒せられ彼は未だ蹶起するの機會を捕へ得ない。或は事變の解決を見るまで終に斯る機會が到

來しないかも知れない。しかし最後の決算を見るまでには事變後更に長年月を要するであらう。

(二) 英國の立場

英國人はノルマン人アングロサクソン人の血液を繼承し古來海上交通を以てその生命とした。而して世界到る處に商路を開發し根據地を構へて今日の發展を生むに至り世界陸地の四分の一を掌中に收め太陽浴すること無き繁榮を得てゐるのであるがそれが必ずしも正當なる平和手段の結果でないことは云ふまでもなく屢々暴力武力に依つて殘虐な侵略を敢てしたことは歴史の證する所である。英國は疑もなく世界隨一の侵略者たるに拘らず侵略の利益に依つて國家は繁榮し文化は進み國民は政治的社會的訓練を受けて巧にその野性を純化したかの觀がある。しかし一朝事あるに臨みては猛然その本性を暴露し我利我慾の所謂商人根性となるを常とする。一見紳士らしく思はれるのは只その包装のみに止り内容は恐るべき專制的暴君に外ならない。

明治三十年頃より露國のアジア侵略愈々烈しく滿洲は勿論中央アジアより南下する勢力の爲に印度の安全が著しく脅威せられた。此の時英國は東洋の平和を名として日英同盟を結び相提携して露國の南下を阻止することを約した。日本は如何に忠實にその同盟の爲に又世界大戰に際しては英本國の爲に犬馬の勞を盡したかは吾人の記憶に新なる所である。然るに大戰中露國は崩壞して印度の危機消滅し反對に日本が漸次頭角を現し來るや双葉の中にその成長を蹂躪して將來の發展を害するに如かずと考へ米國を唆してワシントン會議を開催せしめ伸びんとする我が海軍力を抑へ剩へ九ヶ國條約四ヶ國條約を締結して忍ぶべからざる束縛重壓を加へ始めた。同時に日

英同盟は廢棄せられ日本を弊履の如く棄て去つたのである。斯くして吾人は支那人より經驗したるが如き忘恩的報酬を與へられた。更に今次事變發生以來屢々繰返された幾多の皇軍妨害支那援護事件等と思ひ浮べる時誰か悲憤を感じない者があらうか。

然らず何故に英國が斯くも飽くなき陰謀を敢行するのであらうか。抑々英國が支那に經濟的基礎を築いたのは今より三百年前にて我が江戸幕府開設の頃に相當する。爾來苦心經營の結果今日の一大勢力を成就したもので香港上海を中心として海陸の交通、運搬業、商業銀行業、紡績その他の工業、鑛業、旅館業等に至るまで凡そ利のある所に喰入らざるなく之等に依つて年々本國を潤しつつある金額は蓋し數億圓に達するであらう。而して香港に嚴重なる軍事施設を加へて東洋艦隊の根據地となし上海には陸戰隊を常置して之等の權益を永久に擁護せんとしてゐる。然るに一方皇國の進展も侮り難く特に昭和七年の上海事變以來決河の勢を以て英國の壘壘に迫り今や兩々相對峙する二大勢力となり長崎縣上海市の呼名さへ通用する所から見れば既に一步彼等を凌駕した證左とも謂ひ得るのである。是に於て横暴なる專制的暴君は新興日本勢力に對して寛大なる善なく疑心暗鬼の結果あらゆる術策を弄して自己の優勢を維持せんことに没頭してゐる。前年リースロス氏を南京政府の經濟顧問として幣制改革を企てしめたるが如き今次支那事變の勃發を陰に煽動して日本勢力の退却を傍觀せんとしたるが如きはその狡猾なる例證であらう。現状維持即ち全世界に於ける無限の權益を永久に保持せんとするのが彼の通念であり同時に又それが世界正義であり人道であると自惚れてゐる。數百年の永きに亘る不正暴虐の結果無比の成金

國が出現し而してその現状を維持することのみが平和であり正義であることを世界中に強要しようとするのである。永き覇者としての存在が斯くも利己的に事物を観察處理せしめる様に習慣付けたのである。神はアングロサクソンの子孫にのみ幸するものとは限るまい。

今次支那事變に於て強ち日本は彼等の權益を頭から蹂躪しようとするのではない。日本に敵意を含む政治的暗躍を以て支那を操縦煽動することを止め眞の正義人道に立脚して相共に支那を覺醒せしめ以て東洋永遠の樂土を再建せんとするのである。不合理非人道なる軛を以て十重二十重に縛られ神の慈光に浴し得ない不遇なる者の苦痛を除去せんとするのである。吾人は具に英國の熱慮猛省を促さざるを得ない。

(四) 日本の立場

支那が排日侮日の精神を民心に植付け失地の回復を目標として日本に反噬するの態度を繼續する限り我が國年來の大方針たる大陸進出の國是と調和し得る筈がない。日本は資源貧弱にして自給自足が出来ない。獨伊等と共に所謂持たざる國の仲間に入らざる。之に反して英米佛蘇の如きは幸運にも我が國より數世紀以前に覺醒し現在程一國の行動が全世界を衝動せしめること無き近世の初頭に於て早くも世界政策を樹立して恣に野蠻未開の地を併呑した。而してその土地からは無盡藏の資源を獲得すると共にその人に對しては自國の製品を供給して莫大なる商利を收めてゐる。即ち祖先の遺産に依つて現在の繁榮を續けると共に現状維持を希望してゐる國々である。日本は彼等の跋扈跳梁を逞うする時代には不幸鎖國の状態に置かれてゐたが一度鎖國の夢を破つて

國際競争場裡に登場するや鎖國時代に蓄積せる潛力と本來優秀なる素質とを以て僅々七十年の間に被等先進國に追隨し正に世界三大國の班に列することとなつた。即ち日本は獨往邁進自己の實力を以て新なる運命を開拓せんとしてゐる。現状維持は日本を始め獨伊以下不満足國の希望とは凡そ縁遠いものと云はねばならぬ。

我が大陸進出の大方針は右の信念から出發するもので之を放棄することは自滅を覺悟せざる以上到底許さるべきことでない。然らば日本は支那大陸を悉く蹂躪して之を我が屬領たらしめ以て満足國の範に做はんとするのであらうか。

(イ) 領土的野心無し

我が國に支那領土侵略の野心無きことは屢々政府の聲明せし所に依つて明瞭である。又九ヶ國會議開催に方り我が國が参加を招請せられた時外務省より發表せる聲明にも同様の趣旨を述べてゐる。然るに支那は勿論歐米の列國は自ら侵略せる過去の歴史に鑑み日本が之に做はんとするものと速断し自己流の僻見から免れることが出来ないのは笑止の至りである。日本は從來屢々大陸に出兵したが單に領土的野心を目標としたことは嘗てなく常に支那を覺醒せしめ相提携して眞に支那の領土を保全せんが爲に一國の存亡をさへ賭したものに外ならない。若し日本莫りせば今日支那の存在ある筈なく明治三十年代に於て早くも歐米列強の分割に一任せられたことであらう。現在と雖もソ聯邦は外蒙古新疆甘肅方面に英國は西藏に佛國は雲南に不斷の魔手を伸してゐる。若し支那が翻然悔悟反省して完全なる日提携の實成るに於ては之等の魔手を驅逐して狂瀾を既倒に翻すことも強ち不可能ではなからう。支那民族の救済と支那領土の保全とを衷心よ

り念願するものは同文同種の日本を描いて他に求めることが出来ない。

(ロ) 共存共榮を望む

日本の支那に求むる所は領土に非ずして共存共榮である。支那が排日侮日政策を放棄して兩國善隣の關係を結び互に有無相通するの情誼を固くするに於ては相寄りて東洋に於ける一大勢力の出現となり亞細亞の中心確立して白人種の擄取を完全に防止し得るに至るであらう。茲に日支兩國の共存共榮となり東洋の平和は確立せられ世界文化の發展にも寄與する原動力となるであらう。即ち今次事變は支那を膺懲し領土を侵略せんが爲のものに非ずして親の子に對する愛の鞭であり誤れる友に對する諫言である。之に反し日支永く相戦ふに於ては相共に國力の疲弊を來し益々白人をして虚に乘せしめ終に全アジア衰亡の禍根を招くに至るであらふ。吾人は支那が大局を達觀して歐米依存の迷夢より醒め一日も早く日本に接近し來らんことを切望に堪へない。

(ハ) 東洋永遠の平和確立

現在支那は上海南京を失ひながら依然長期抵抗を絶叫してゐる。抑々上海は支那全土を潤すべき經濟上の門戸であり首都南京は政權の所在地である。之を人體に譬ふれば心臓と腦髓に相當する。心臓と腦髓を失ひたる支那は生物當然の原則に依り直に屈服すべき道理でありながら蔣介石は猶も存続し得るものと考へて俄に屈服しやうとしない。半身不隨の蔣介石が長期抗日の根據は然らば何處にあるのであらうか。恐らく彼の胸中には英米佛蘇の援助に依つて苦境を脱し得るもの或は脱せんことを描いてゐるのであらう。併し連戰連敗の結果戰鬥力の大部分を失ひ一般民心離叛の兆濃厚なる時に於て第三國が存亡を賭してまで執拗なる

支持を與へる筈があるまい。大勢決定せる現在猶も第三國の援助が隱微の中に繼續しつつあるは過去に於ける蔣介石操縦の惡縁を清算し切れない爲であらう。而も之等の好意と雖も時日と共に及彼が存在の薄れ行くと共に漸次消滅し行くものと考へざるを得ない。今や北支には既に中華民國臨時政府成立して南京杭州濟南その他にも治安維持會成立して蔣一門の獨裁主義と共產思想とを排除し日本と親善提携せんことを聲明して民心の遊離歴然たるものがある。此に於て彼最後の悲鳴とも云ふべき長期抵抗は自己没落の運命を一層促進するものと見ざるを得ない。

蔣介石没落の曉には第三國はその好むと好まざるにと拘らず過去の因縁關係一切を清算して嚴肅なる現實の前に叩頭せざるを得ないのであらう。又同時に支那四億の民衆も歐米の頼むべからざる痛感すると共に従來の誤れる白人崇拜の思想を一擲し活眼を開いて日本に信頼し來るであらう。

茲に三世紀に亘る白人の東亞支配權が一段落を告げ日本の東亞に於ける支配的地位が確立せられ東洋人に依る東洋永遠の平和が樹立されるに至るであらう。

以上が今次事變の意義であり皇國出師の大目的であると考へる。今や戦局は既に峠を越え第二段階たる收束時代に入りつゝあるやうに思はれるのであるが局面が大きいだけに依然として樂觀を許さざるものがある。

摺筆するに方り皇國歴史的大偉業を遂行せる出征將兵に對し滿腔の感謝を捧ぐると共に銃後國民の結束が益々鞏固ならんことを切望する次第である。

附記。冬期休暇を利用して右の如き冒險的解説をものしましたが米佛獨伊等の立場に言及する暇がなかつたこと

は遺憾に堪へません。又記述中の誤謬に對しては大方の御叱正を乞ふ次第であります(昭和十三年一月七日記)

構成教育斷片 [3]

神奈川縣師範學校訓導

中 村 亨

7 外部的な形、明暗、色彩、材料、コンポジション等が内に働きかけて、兒童の欲求に應じて之を動かす、形態を構成し、美を覺醒し深め、新しい機構を有機的に全體的に構成して行く。構成とは或る個々の材料を組合せて新しいものを作り出すことである。それはあくまでも意識的であり、創作的であるが、そこに企圖されなかつた飛躍もあり、發見もあり、又驚異もある。しかも有機的に直覺的に醸し出される新しい構成の美が存在するのである。

對象の要點を強調し表現する「單化練習」は、事物の全體性をあらはす感覺の基礎的訓練をなすものであり、

白・灰・黒を基調とする「明暗練習」は、對照的なたがたを直感的につかませ、面による表現の深さを奥行を與へ、平面と立體とを連絡させるものであり、色彩配合のシュパンスクによる「色彩練習」は、感覺上に浮び上る色彩を根本的につかみ、色を人格化し、兒童の純粹感覺を整理し發展させるものであり、

實物の斷片的材料をコンポジションに役立てる「材

料練習」は、明暗・色彩と同時に觸感的な感覺を訓練し衣服調度等の生活へ連絡づける基礎的陶冶であり、

空間を處理する「コンポジションの練習」は、明暗・色彩・材料の總和として全體的に構成といふ一元的な立場より有機的にまとめあげるにある。

しかもこれ等は、総合的に日常生活のあらゆる部分に充滿してゐる事項に對して、兒童の覺醒を促し、新しい學習新しい生活へ飛躍し發展させるべく、企圖されなければならぬ。

8 小學圖書に構成教育を如何に取入れて行くか。これは重大な問題であり、この研究の曠野は廣げられてゐる。我々は徒らに理論のみを喋々とせず、直ちに實踐行動にうつり、圖書指導の容易化を圖らなければならぬと思ふ。

兒童作品募集

- 一、種目 書方、綴方、圖書
- 一、題材 自由
- 一、締切 毎月十日
- 一、宛名 神奈川縣師範學校附屬小學校

「武相教育」編輯部

- 一、注意 作品には必ず校名、學年、氏名を記入の上書方三點、綴方一點、圖書二點學校としておまとの上御發送願ひたし

時局に對する本校教育上の努力點

足柄上郡曾我尋常高等小學校長 朝 倉 重 治

(一) 教育精神の作興

- 1、教育者に賜りたる勅語並に御聖諭の御趣旨奉體
- 2、時局の認識究明と教育使命の自覺
- 3、特に烈々たる氣慨と鬱勃たる氣魄とを持し至誠教育奉公に努むること
- 4、強建なる身體と剛健なる精神涵養に一層努むること

- 教育者に賜りたる勅語並に御聖諭の奉讀式
- 宮城遙拜
- 皇大神宮禮拜(職員室奉安)
- 時局に關する職員の座談會
- 職員共同作業の實施
- 職員體操及競技練習
- 職員貯金の奨勵

(二) 時局認識深化の強大

- 1、支那事變の原因に關し正しき理解
- 2、支那事變戰況に關する大要の理解
- 3、我國の現況と堅忍持久の必要理解
- 4、國際情勢に關する大要理解

- 祝祭日記念日に際し時局に關する訓話
- 朝禮訓話 學級訓話
- 特に修身、地理、國史、綴方科との連結
- 事變映畫會(第一回十一月九日實施)
- 事變に關する地圖、寫眞、ポスター等の揭示

(三) 國民精神の作興

○支那國情の理解と支那に對する侮蔑排除に關する訓話

- 1、我國是に關する理解
- 2、天皇 皇后兩陛下の御仁慈に關する徹底
- 3、出動將兵の忠勇武烈の美談理解
- 4、銃後々援美談に關する理解
- 5、困苦缺乏に堪ふる心身鍛鍊
- 6、質實剛健なる精神の涵養
- 7、國防に關する理解

- 神勅の取扱と其の理解
- 勅語並に詔書の御聖旨理解
- 第七十二回帝國議會開院式に於ける勅語の御聖旨の理解
- 今次事變に際し 天皇、皇后兩陛下の御仁慈の徹底
- 皇后陛下の御歌の御心徹底
- 「なぐさめむことの葉もがなたたかひのにはをしのびてすくすやからを」
- 宮城遙拜
- 神社參拜及清掃
- 忠魂碑參拜及清掃
- 戰勝及皇威宣揚祈願祭參列
- 國旗に關する取扱徹底
- 勅語並に詔書の奉讀式及訓話
- 國民精神作興週間の實施

(四) 非常時財政經濟に關する理解と協力

- 1、非常時經濟國策に關する理解
- 2、勤勞奉仕
- 3、冗費節約貯蓄奨勵
- 4、生産増加擴充に對する助力
- 5、資源の愛護

- 出征兵に對する慰問文(毎月發送實施)
- 出征軍人家族慰問
- 國防共同獻金(第一回金拾七圓也獻金)
- 剛健遠足の實施
- 戰勝祈願神社參拜(七ヶ所巡拜)
- 出征兵見送り
- 體操及競技の重視
- 團體訓練の重視
- 國防に關する映畫會及講演會
- 非常時經濟國策に關する講話
- 出征軍人家族の勞力奉仕(稻刈實)
- 貯金の奨勵(毎週金曜日取扱)
- 共同勤勞奉仕(草刈、蝗取、落穂ひろひ)
- 農業實習作業の重視
- 學用品等の節約、校服着用勵行
- 國産品の愛生用奨勵
- 廢品の蒐集に對する助力(婦人團女子青年團實施)
- 生産増加計畫に對する助力(本村としては米、麥、カンテン、梅干)
- 冗費節約貯蓄奨勵等に關するポスター、印刷物の配布
- 村の自力更生計畫に對する助力
- 資源の愛護
- 特に家事、裁縫科、農業科との連結

バンザイ

元旦

ナカデヨシラウ

三浦郡三崎小學校 尋一 ナカデヨシラウ

萬民仰聖徳

元旦試筆

高橋喜七郎

愛甲郡厚木小學校 尋六 高橋喜七郎

皇風千里春

元旦試筆

神田治子

三浦郡三崎小學校 尋五 神田治子

大御代の榮

元旦

渡部輝哉

神師附屬小學校 尋四 渡部輝哉

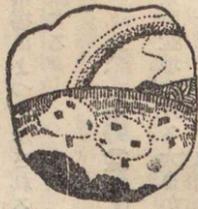


兒童生徒作品欄

俳句

愛甲郡厚木尋常高等小學校

- 元日や足駄の音も新なり 高一 山田昇
- 元日や軒端々々に松かさざり 高一 高橋幸次
- 元日や軒にはためく日のみ旗 高一 淺岡宗次
- 朝霧はすつかりはれて初日出る 高一 猪又文雄
- 妹はたもとをもつて羽根をつく 高一 猪又文雄
- 羽根つきや長いたもとをもてあまし 高一 鈴木勳
- 門松へかゝつた羽を取つてやり 尋六 今井汪
- 元旦に戰場からの初だより 尋六 今井汪
- 初詣武運長久いのるかな 尋六 菊地泰俊
- 正月や門松立て、祝ふかな 尋五 角田浩一
- 戦勝の春は一そう樂しかり 尋五 足立原久夫
- 初夢に虎が出てきてなきにけり 尋五 岩井元方



神奈川縣地理巡檢雜感

小田原第一尋常高等小學校訓導

渡 邊 涼 作

机上で地震の周期性等を計算ばかりしてゐても初まらない。汝大地に問へ。大地は答へん。とは自然科学研究の要諦である。

三、特色と共通

原町田の市場町の商家は店前に三角空地を有してゐる。道路の方向と鬼門を避けた家屋の建築との喰ひ違ひによつて出来たものとされてゐる。伊勢の松坂市にもこの例があり、少しく注意すれば小規模ながら所々の古い町はづれにもみられる。酒匂村や前羽村の街村では萩や落花生を不自由さうに乾してゐた。

原町田では長い庇を出して、空地を店頭の一部として利用したり、昔程の廣場が不必要となつて、店前に更に出張し店を出して營業してゐる様は特異な見ものである。特色といふものはよくみれば共通したものであつたり、更に又一段と注意すれば又特色となつてくるものである。

四、相 模 原

北相の桑畑の分布は、大集積的なものとして我が國屈指のものであつて、或は日本一折紙が付せら

一、國體の本義

十月廿五日朝、秋晴れに恵まれて神奈川縣學務課主催第二回神奈川縣臨地地理科講習會に参加すべく集合場所として指定された原町田高女への小田急電車に乗つた。澁澤驛から乗り合せた一青年が、ヨレヨレの袖の着物の内懐からさも大切さうに取り出したのが文部省發刊の「國體の本義」であつた。この農村の青年が、この時に、これを読んでゐるこの事實だけで、文部省が國體の本義を發行した意義があつたやうに思へた。

書物は如何に多數に讀まれたかよりは、如何なる一人によつて如何によりよく讀まれたかが問題のやうに思はれてならなかつた。

二、汝大地に問へ

花井講師から關東構造盆地の講話を聴いて、關東大地震に於ける地盤の水平及び垂直運動が、全く過去の關東構造盆地の地殻運動の連続と見做されること、精密な科學測定によつて、一つの剛體である地殻の急激な造樫運動が適確に豫知される時代が近づきつゝあるやうに覺える。

外に求めて

内にかへりぬ

(中老の教師は語る)

向 丘 確 井 正 丸

外より、外より、遠くより——
そこはかとなく、光は誘ふ——

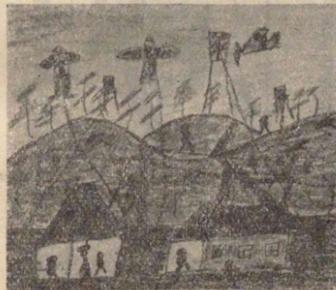
(1)——
おろかなる、若者ありき——
田畑守る、つとめふるしと、
父母います、我が家ふるしと、
生ひたちし、故郷ふるしと、
夏虫のごと、光を求めて、
壯也！ 男子立志出郷關……

(2)——
師の君の、心づくしも
ちちははの、心づくしも
友どちの、心づくしも
吾一人の、手柄におさめて、
意氣や荒し——卒業——就職
壯也！ 乃公不出如何教育……

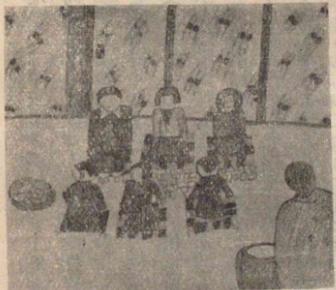
(3)——
新刊書——新刊雜誌——
半如半解——啓學——科學
「實」のなき、「コトアゲ」の學——
あつばれの、新智識づらして
師範訓導——教生指導——
危シ！ 自由自我實現・立身成功主義。



子 照 崎 宮 四尋・崎 三



二 周 井 石 二尋・崎 三



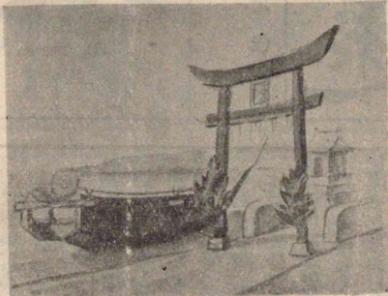
江 好 澤 岩 三尋・崎 三



子 和 村 山 四尋・附師神



男 俊 川 石 一高・崎 三



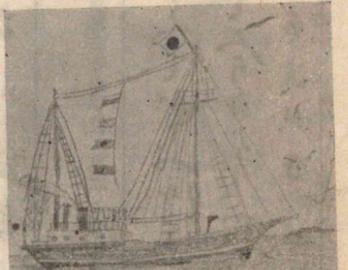
司 博 口 出 一高・崎 三



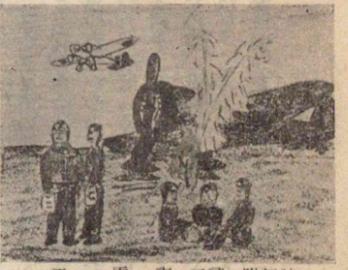
子 禎 原 四尋・附師神



子 元 藤 齋 四尋・崎 三



昂 野 天 三尋・崎 三



正 雲 南 二尋・附師神



枝 照 堀 三 三尋・崎 三

關東平野周縁の一部、中央日本の養蠶地域の一部としての神奈川縣の横顔である。
相模原上段及び中段の廣漠とした原野面の水利による開拓は、縣の豫定事業となつてゐるが、相模川の利用による具體化を一日も早く具現されるやう切望して止まない。今秋の陸軍士官學校座間移轉は、この地に世人の注視を向けただけに今後の開發發展が期待出来る。

五、神奈川縣の中央的位置

相模横山七里の丘陵は相模川の舊氾濫原に埋め残された岡阜地で、相模國分寺は丘陵の西斜面下相模川の段丘上に建立された。相模の中央、河川と平野に臨み、遠く丹山富嶽を仰ぐ景勝な土地は又形勝な土地としても選ばれたのであらう。附近に六條一里の條里制度の跡を残す。耕地整理も注意深く行はれてゐるやうで嬉しい。

厚木町は大正末期から地方鐵道網とバス網の焦點となつて、町勢回春の徴候が頓に著しい。縣の中央にある位置はこの町に將來性を多分に與へてゐる。

厚木附近は古の武藏七黨の中の横山黨が楔状にはびこつた土地である。伊勢原の「伊勢」秦野の「秦」は此の地方の往古の開拓過程が、西國よりの人によつて行はれた證となつて面白い。秦野町は舊名十日市場によつて示されるやうに共に地方の市場町に起原する。

六、秦野盆地と澁柿

秦野盆地は或る大まかな風景は愛すべきものがある。丹澤や大磯の地塊に圍繞された小盆地でありな

がら茫乎とした感をうけるのは、水無川扇状地面の一面の畑地開墾による見透しと、緩かにローリングする波状の盆地面から受けるものと思はれる。孫佛に雪がきて、蕭條として霞の過る初冬の枯野の秦野原は人の心の奥底に觸れるものがあり、菜の花の色彩に漸々と麥の秀でた方形の畑の綾が打つとく初春の風景は、人の心を限りなく長閑にする。

畑場所と知られた盆地に於ける柿の木は分積的植栽は、それが何れも相當な大木であるだけに目立つた景觀をなしてゐる。それも殆んど全部が澁柿である。樹列の按排からして一望曠漠の單調な原野面の畑中の境木としての役割を持つかとも考へられたが古老の話では干柿を造る爲であつたといふ。以前は原が暗やむ程植えられてゐて、麥時濟んだ師走の農閑期に唯一の子女の副業として恰好のものであつた。一戸で百圓二百圓の収入があつたといふから馬鹿にならない。今日では干柿を正月の飾物として必要がなくなつたし、大和物等に押されて切つてしまつたといふ。

樹の下の畑作物の生育が悪くても柿が植えられた所に意義があり、今残存するものは柿澁の製造に用ひられることが多く、暑い夏を持つ盆地の畑場に働く農夫に憩ひの陰を與へてゐるのである。

七、足柄の柑橘栽培

比々多村からみられた柑橘栽培は、酒匂川の流域に出ると急に四周の斜面に立つ。西南日本の特色である蜜柑の經濟的耕作の北限とされてゐる。西湘の豊かさを表象する一つである。

小田原根府川吉濱に亘る蜜柑耕作西群に對して、山北松田國府津の東群とに分布を大別出来る。そし

(4) 知と行の、分裂矛盾に——

天譴は、病を給ふ

メリメリと足許は凹みて——

奈落の地獄に落つるが如し。

文明の學術——死に立てる吾を救はず。

慘！志不成而、死處求於郷關而還……

○ 内より、内より、脚下より——

(1) 「眞實」の、行證の法悦——

なつかしく、迎ふるふるさと

身に代へて、祈るちははは、

身の如く、案ずる、師友・兄弟

嗚呼！「眞實」に結ばるる世界

「この上に、憂ひなかけそ、

罪滅ぼしに、笑つて死なん。」——と

(2) 晴れにしなければ、缺かすことなく

家近き、小松の山の——

南下される、中腹に——

半伽扶座、はからひすてて——

仙人のごと、「天命」を俟つ。

日の光——そよぐ清風——

(3) 「死」に立つて、「生」をぞ觀れば、

「ものみな眞實」に、結び成りしこの身の、

發見

「本來無一物」「吾れ」といふものなし

すがすがしきかな、感謝の法悦！

いつの程にか、病魔は去りて

盛り上る——心身の健康——

(4) 生を求めて、死に頻し

死に立つて、生をぞ得たる、

外の光りを、内にぞかへし、

内より輝く、無量泰彌榮——

内外一如——脚下より上下四維へ——

瑞穂の國は「眞實」に實のり結ぶ。

○ 外より、外より、遠くより——

そこはかとなく、光は誘ふ——

(1) 西歐五百年の、近代文化を、

うつし植えて、五十年、

見よ！皇國土に生ひ繁りて、

世界文化の、オンパレード、

颯爽として、耳目をうばふ——

壯也！發展的、包客的日本精神

(2) 自由平等——民權擴張立身出世、

個人主義社會——「多數」の正義・社會の發見

理知の優位——自然科學・生活技術の進歩

物質文化——産業經濟技術の發展

計らざりき、西歐文化の銀界的指導精神

「繁榮の原理」は「衰亡の原理」に移行する事を

(3) 物質文化は「精神」を征服し、

理知の優位は「心情」と「行」を無みし、

多數の正義は「人材の質」を下し、

自由平等は「歴史的權威」に對立し、

「利慾と權力」との個人主義社會は、

て東群では山北と曾我國府津に核心地域がみられて松田附近に著しく分布が疎になつてゐる。これは氣候土質の影響もあるのであらうが、秦野的な煙草耕作の長い習慣の爲であると考へられる。

八、土木工事と土地の性質

小田急が四十八瀬の狹隘部を通過する部分が、七月の大雨に大被害を蒙つて復舊未だに完成してゐない。夥多の砂礫は河床を上昇させて鐵橋の橋脚を全く埋没してゐる。伊勢原附近の深田濕地を横切る鐵路は地盤脆弱で沈下するので、電車が除行したのを覺えてゐる。小田急が線路の地盤が悪い故に、建設當時豫定されたスピードを出し得ないといふのは一つの悲哀である。

國府津松田山北斷層崖下を通ずる御殿場線及び縣道が、山麓扇状地の堆積被害を瀕繁にうけつゝある現状と共に、此等の土木工事はより一層入念な地形構造を地質工學的の基礎調査の必要を痛感する。

九、地方鐵道の影響

運轉回数の多い地方鐵道の開通は地方の中心都市の盛衰に關係することが大きい。小田急の場合に於て原町田、厚木、秦野、小田原の間隔は凡そ二十軒内外で適當であり、その中間の伊勢原、松田は地方商業地として大いに制約を蒙つた。小田原でさへ嘗つて小田原新宿間歳末五割引往復乗車券を發行した時、小田原の小賣商人から顧客を奪はれると苦情が

持ち出されたことがある。伊勢原松田の商店街の閑散振りは氣の毒な程である。

東京といふ大商圏の吸引力と平塚小田原等の地方商圏と此等の小商圏との複雑な關係の推移は興味ある問題である。

一〇、都市研究の行き方について

城下町宿場町に基礎を置いた地方商業都市小田原は、近代の遊覽保養都市又は交通都市として複雑な機構をもつてゐる。接續町村合して人口六萬を含む小田原が研究上掴み所のないまでに多くの面を持つて居る。歴史に豊富な都市の研究に從來行はれて來た歴史といふ時間を根幹とした地誌の記述ではなくて、空間科學として純粹の地理學的立場からその都市の現在の現象を考究把握し、歴史性によつてそれを裏づけてゆくといふ行き方は困難なものであらうか。

一一、日本リヴェラ

箱根火山の東南麓、相洋に瀕する處、片浦村岩村眞鶴町の岩石海岸がある。

三宅克巳畫伯は眞鶴灣を、辻村太郎先生は江ノ浦からの海岸風光を推賞されて、南歐リヴェラ海岸に彷彿するとの意味から日本リヴェラの名を與へられた。岩の漁港を背後の縣道から見下した景色なども小規模ながら岬角に圍まれた漁港の形と色彩の多様さが纏つてゐて、一幅の洋畫をみる心地がする。

遊覽者の風景觀の向上に従つて湯河原熱海の温泉歡樂街と結び付いて、此處の海岸筋にも坦々たる舗装路を縫はせ、棕桐の並木でも植えて名實共に南歐情緒を漲はせてみたい氣もする。

二、疑問開陳

箱根火山體を國府津から望見して、火山體の沈下の説は花井先生は斷定を下して居られなかつたが、大きなヒントを得て嬉しかつた。足柄平野に於ける年來の疑問開陳十種餘と呼び度い位であつた。

一三、己を嗤ふ

國府津驛背後の崖下一平坦面に立つて大磯地塊南邊の海蝕段丘の説明があつた。或る一人が「この平坦面は何でせう？」と質問を發した。二宮附近の段と對比を考へてゐたのである。先生もちよつと答を躊躇して居られた。熱海線建設工事の土盛りのため切取つた段である趣を傳へた。で、その講習員は「あゝ、さうですか。他の人文現象ですね。」と獨言した。

人文現象——なんて街つた大げさな言葉であらうと思つた。次には己自身をも大いに嗤ひ度くなつた。

一四、別荘地大磯

我が國別荘地と海水浴場の濫觴として湘南に有名であつた大磯町が、昔日の氣勢があがらないのは何故であらうか。町民の自覺の不足がよく理由に擧げられるが、住宅地としては東京から一時間半を要する距離は遠過ぎ、別荘地としては房州と伊豆の擡頭に壓倒されたのである。別荘地としては寧ろ三時間乃至四時間圏内の小旅行氣分を好む氣持ちがある様に思へる。

北に高麗の山を背ひ、南方暖海に臨む田園都市風の小さな別荘地大磯に我々は多大の愛著を感じるの

である。

一五、湘南の遊覽保養地帯

藤澤稅務署の統計によれば、管内に於て土地の住宅地への變換筆數よりして、住宅別荘發展の狀態が鎌倉は既に老衰期の徴を表はし、藤澤は滿壯年期、茅ヶ崎は壯年期にあるといはれてゐる。

六百萬巨大都市東京のアトラクションが、交通のスピード化によつて湘南地方に空間的に觸手が擴られてゆく。

大磯も平塚も藤澤も亦鎌倉も水が悪い。縣營水道の完成による該海岸地帯は湘南パークウェイの開通と相俟つて、將來の發展が約束された。長さ六〇〇米の湘南大橋の美觀、沿道砂丘地帯の松の植、彩色するに文化住宅を以てする湘南道路は、やがて片瀬に於て鎌倉から通ずる歴史道路と連絡する時を考へると、觀光神奈川への縣廳の意氣込みが窺はれるのである。

一六、江ノ島の漁港

湘南大橋の上から眺めた須賀は砂丘の陰を利用した相模河口の漁港であつた。江ノ島神社の一ノ鳥居前を左に折れて進むと江ノ島漁港に出る。水平の岩層が海蝕によつて露出してゐる。關東大震災によつて隆起した岩盤には地層の不整合線を指摘出来るし、階段形の港町風景も捨て難いものがある。

江ノ島への修學旅行と遠足は是非二十分を加算して、江ノ島の漁港も見學すべきだ。

一七、三浦郡の飛地化した浦賀町

講習會第三日の晝食は久里濱小學校と豫定されて

ゐた、ところがバスは八幡を素通りして久里濱部落のペリリ記念碑の前に着けられた。茶店で晝食を喫し終ると浦賀小學校長と三浦郡教育會長の丁寧な挨拶があつた。

浦賀町は三浦郡のエツクスクラーフエンの存在である。先年市域擴張によつて田浦町衣笠村久里濱村の三ヶ町村を合併した大横須賀市のエツクスクラーフエンである。早晚浦賀町といふ自治體は消失して横須賀に合すべきものであらうが、行政上及び全體的、經濟的交通の不便のみばかりでなく、地圖に現はされた行政區劃の形も不愉快である。由來三浦の教育界は緊密な相互連絡が完全に行はれてゐると聞いてゐたが、もつともと思はれた。

大都市の市域擴張に伴つたエツクスクラーフエ浦賀町の存在は、久里濱村が先に合併したことによつて興味ある問題を提供した。

一八、大崩より引橋まで

大楠山の脊梁が長く海中に突出した白色の岩盤からなる長者ヶ鼻を分界線として、都人士に同化された逗子葉山と著しく違つて、南部三浦の海岸には漁戸蟹合農家などの野趣が展開する。長者ヶ鼻南岸を大崩と云ふ山岳が絶えず崩れて絶壁を海に入る。この急斜面の日射を利用して苑豆の早期栽培の盛觀は久能山の莓栽培に比適さるべきである。大崩の土壤が常に新しいものが供給されて却つて苑豆の連作を許すといふから、土地利用もこれまで行はれると餘すところがない。立派なものだ。

高圓坊の所謂三浦の海蝕臺の卓越した大根耕景觀も目を驚ろかす。名高い三浦大根の産出地域である。

引橋は初聲と三崎の境で、西に小網代灣を、東に金田灣。脚下の谷は松林と雑木の紅葉があり、遠く眼を放てば西に豆相、東に房總の青岱を指呼すべく半島隨一の眺望をなして油壺秋谷のみを稱へるのは三浦の風光を盡さぬ憾がある。

一九、臨港工業地帯

鶴見川崎海岸埋立地に出現した尤大な臨港工業地帯は、流石に日本の心臓部としての力強い面目を躍らせてゐる。一握の海底の砂を掘んで人々に示し、既に今日の隆盛を豫測したといふ故淺野總一郎翁の偉大さに頭が下るのである。近代科學の粹と大資本の總動員によつて建設された大工場群であるが、一面川崎市の努力も考慮しなければならぬ。

十月廿七日午後五時半、全コースを終つて川崎高等小學校の幹旋によつて晚餐懇談會が催された。席上川崎市より教育課長初め數名同席されて我々一行待遇の勞をとられた。前以つて通知さへあつたなら舳舟によつて海からの工場群見學プランも樹てられたのにと、大變残念の趣を述べられた。我々は一介の初等教育者に過ぎない。川崎市の工場招致策とは餘り關係があるとは思はれない。それに對してこの市當局の意氣込みが表はされてゐるので、川崎市今日の急激な發展が決して偶然でないことを知つて市の前途を祝したい心持は私一人ではなかつたと思ふのです。

二〇、ホモゲーン(等質)

神奈川縣内ヲ汎ク巡檢シ夫々歐地地理科ノ研鑽考

争奪、葛藤、分裂、混亂、の不安、焦燥！

(4)

見よ！無産大衆を誘引する共産社會黨——傳統と歴史と國家との破壊工作魔——人間を唯物的奴隷に突落す暴虐魔——敢然として「歴史的全體主義」は起つ、全國民結束統制のフアナチズム、自由衰老の西歐に魅る伊獨青年國

内にぞ、内にぞ、脚下にぞ——

彌榮の、道は輝く——

(1)

「東方より、光は来る」と、西歐の先覺は、東亞・日本に歩みよる、個人—自由—理知—物質—多數—の樞軸を、全體—權威—心情—精神—實質—に揚棄し、對立—分裂—混亂を全體化する道を求めて——聞け！日獨伊協定に新世界史の曉鐘は鳴る——

(2)

「全一的生命」の「體驗」する——「了解表現」の「價值關聯全體世界」——「純粹意識」の「明證」する——「本質直觀」の「源本的眞實世界」——「中心」と「全體」と「部分」とを結び生かして——「西洋の學」は、東洋化する。

(3)

「眞如自性」の、體驗境地に——「一切衆生の佛性」を合掌する「大乘世界」——「本然の誠」を行修して——「天地人一切」を貫き結ぶ「王道世界」——見よ！西洋は「學」—印度は「幻」—支那は

「文」——「學」と「幻」と「文」とを「實」に絞る、「皇道世界」——

(4)

「清明浚我」の明鏡に「私」を拂拭し——「スメラミコトの大自然」に歸一し奉り——「一切萬物のミコト」を「産靈」する——自由即統制の眞實(マコト)行學——中心は全體——全體は即ち個我——脚下より世界を救ふ日本精神總動員。

掛算九々の學習に關する一考案

川崎市幸町

尋常小學校算術研究部

愚なる者は惑はない。そして恐れることを知らない。誰でもやつてゐることであり且つ極めて杜撰な圖表を私が今公表しようとするのはまさにそれである。然しながら、この種の圖表にして、絶対に正確であり決定的であると言へるものは、何人の手によっても作ることとは不可能であらう。この意味に於て、この種の圖表の發表された數多き中に、こんなものあつたといふ一例としては十分意義を有つと信ずるが故に、敢て之を發表しようとするのである。以下本圖表について少しばかり愚見を述べさせていただきます。

一、作製について

1、尋常二年兒童二百二十六名(特殊兒童でない)

と、本講會の趣旨が示指されて居り、以上の雜感を綴つたのであるが、此處に於て極、大體の巡檢地方の地域區分を試みて、地理學目的の一であるホモゲンに明らかにして、地域の對比を行つて結語としたい。

西境山地東麓地帯。第一日行程に當り、多摩丘陵相模原臺地(畑場)相模川沖積平野(田場)丹澤東麓地帯(農村山村)秦野盆地(畑場)酒匂川沖積平野(田場)は扇狀地舊三角洲面に營まれる純農村地域を構成して桑畑・煙草耕作・乳牛豚に於て特色がある。

湘南地方休養地帯。第二日及第三日の前半行程に相當する相模灘沿岸地帯は、小田原・大磯・藤澤・鎌倉・逗子・三崎に亘る京濱の休養地帯である。西部の箱根火山、東部の三浦丘陵は岩石海岸の複雑な海岸を、中央部は砂丘の發達した長汀の海岸を有して、外洋に面した京濱の休養地である。蔬菜園藝と水産業はその特色であり、猶京濱のアトラクトは時間と

距離の問題からして鎌倉・藤澤に最も濃厚である。東京灣沿岸活動地帯。第三日行程。浦賀町に入れば、クレーンの響とハンマーの音が騒しく浦賀ドックが目につく。既に東京灣の京濱工業地區に身のあつたのを感じる。浦賀・横須賀・横濱・川崎は直接土地不生産的な家屋と工場の大連鎖がみられ、横須賀・横濱に於ては家屋が谷戸を埋め盡して丘陵上に押のぼつてゆく傾向が著しい。非活動的な保養遊覽休養地帯の湘南から一步東京灣岸に至ると、俄に全く景相一變して、港灣と埋立とに結付いた近代的城市文化に瞠目するのである。

要するに神奈川縣といふ自然に適應した山地文化平地文化・海岸文化・或はそれらの相錯綜によつて神奈川縣の複雑な文化が具現されてゐるのである。せんじつめれば、海岸の影響と、大東京のアトラクシオン。この二つが神奈川縣の各地域に如何に作用するかによつて、地域のホモゲンが成立してゐると思はれるのである。

神奈川縣教育會 珠算練習帳
 新編 珠算練習帳
 最新 珠算練習帳
 用師教 用童兒 票傳算珠 新最

珠算道珠算教育に百年の歴史をもつ名古屋教育界の權威者諸師に依つて永年繼續的に苦心研究を重ね飽くまで兒童の身體的・心理的方面を基礎とし珠算技術獲得の平易、技能發揚の向上に専ら意を注ぎ各學年系統的に甲、乙別冊の編纂を完成したもので教師用書(指導篇解答篇)を各受持に贈呈し教授の徹底を期しこれこそ最も理想的な珠算練習帳と確信致候 名古屋市及各地方教育會の撰定品にて本縣下に於ても數年來六十八校の御採用を賜り十二年度は五萬三千餘冊納入致し絶讚を博し續々注文殺到致し居り候處 今般更に縣教育會撰定拜受の光榮を得申候

既にお手元に送附致し候 實物見本を充分御審査の上今年より多量に珠算教材を加へられる等四新算術書にそなへ新學期より御採用方御す、め申上候新學期早々係員參上申上候向珠算部員各先生方方の御高見拜承仕度其節はよろしく御願申候最後に既に御採用御使用の六十八各校に對しこの機會に撰定報告の御挨拶申上候各位様の進んで御採用に依り實質上既に撰定品たる上更に賜り御指定の確認を得欣快に存じ候 何卒本年も引續き御採用の程御願申上候

町山白區中市屋古名
 會商田福所行發帳習練算珠定縣
 店書邊渡店理代總帳習練算珠定縣
 朗一數邊渡
 宿新市塚平
 番三二八一九京東替振・〇一七話電

二、一般性について

假に函數といふ言葉を用ふるならば、本圖表が如何なる程度の一般性を有つかは、(イ)調査人數、(ロ)調査方法、(ハ)調査する者及びされる者の特殊性、(ニ)教授方法の特質、等々實にこれ等の函數である。而してこの函數關係は到底明示出来るものではない。然し第一項の説明から考へて或程度の一般性を認めてもよいと思ふ。以下この假定の下に考察してみる。

三、教育的考察

1、難易は、「極めて概括的には數の大小順に一致する。」といふ法則を認めねばならぬやうである。然し個々の九々についての比較は必ずしもさうでなく著しい番狂はせのあることに注意せねばならぬ。各段の段別の比較に於てすらさうである。

2、「同じ二つの因數の積でも、先唱する數が大で



盆景法地理模型の實際

(一) 序

曩に、陸地測量部の地形圖を利用して、主としてボール紙利用の「兒童を中心とする地理模型の作り方」を、次に「鑿像法に依る地理模型の指導」を、簡單乍ら述べて見た。今度は、日本在來の藝術である盆景を利用して製作する「盆景法地理模型の實際」に就いて、教育的効果のいちぢるしいものと思はれる點が多々あるので、敢えて、小さき経験乍ら綴つてみたいと思ふのである。

尙、全然「盆景」に経験なき者、幾分でも、「盆景」に経験のある方とわかれると思ふが、どちらでもそれぞれによつて、立派な製作品が出来るものと思ふ。便宜上、今兒童を對象と致しまして、前者の方を主體にして述べることにする。勿論経験ある方は、殆んど理想的に、眞にせまる優秀品が短時間のうちに出来るものであることを、斷言してはばからなう。

(二) 二つの教育的立場

(1)、盆景から

「盆景」は日本在來の藝術品ではあつたが、「盆景」は有閑人のよく爲す業なり」とは私の今迄の特に強く思つてゐたこと。そうした私の強き一面が、今その盆景に對して強く愛着を感じさせるやうになつた。それは、

都筑郡都田尋常高等小學校 石 井 茂

「天然の美と人工の妙と相俟つて、能く天地の大觀を僅か、寸眸の裡に收め、庭側においてこれを鑑賞すると言ふが盆景の本質であるが、元來自然を表現する方法に於て、盆景は他の藝術に比して最も卒直で、最も多分に生氣をもつてゐると言ふ點から、民衆的の藝術として、たゞにその道の人にはばかりより鑑賞し得らるると言ふものではなく、大衆の前に於て、一般に鑑賞の出來得るものである。こう言ふ特質から盆景はその利用の途が多々ある……云々」と。此の多々ある利用を教育的直觀的材料である模型に見出したからである。

或師匠が「盆景に創作味を附加へなかつたら、盆景の本旨にもどるばかりでなく、生氣なく、地理の模型のやうなものだ」と言つたが、私は決してそうは思はない。地理模型には成程一定の目的意識こそあれ、作業過程に於て(後述)相當の創作味がありこれがあつて始めて兒童の興味もひき、これによつて教育的効果もいちぢるしいと信するのである。

(2)、非常時局の兒童から

「此のたくさんの日の丸の国旗がたつてゐる花壇は何だぬ」

「これは先生、僕の作つた支那の地圖の庭園でこの国旗は、皇軍の占領した印しです。『皇國圖』と名づけてゐます」

ああそうか、家の中に出来る方法はないだらうか

あるものの方が一般に難である。」といふ法則の成立は否定出来ないやうに思ふ。例へば、 $3 \times 11 = 33$ の指數をみると三十八であるのに對し、 $7 \times 3 = 21$ の方は六十一である。其他についても多くは同様になつてゐる。この原因は種々あらうけれども、教師及び家庭の人々の多くは總九々以前の教育を受けた者であるといふことも或は一原因ではないかと考へられる。

3 一般に各段の初がよく出来ること、各段別についても二の段三の段等初がよく出来ること等は、數關係の簡單といふことも原因であらうが、一つは練習時代に於ける心理的條件に支配されることも大きいと思ふ。

4、「シ」「チ」は發音しにくくこと、混同し易いこと等の理由から「4」「7」「8」の關係する九々は目立つて出來が悪い。即ち

九の段では $9 \times 4 = 36$, $9 \times 3 = 27$, 9×7
 八の段では $8 \times 6 = 48$, $8 \times 4 = 32$, 8×7
 七の段 $7 \times 4 = 28$, $7 \times 5 = 35$, $7 \times 7 = 49$
 六の段 $6 \times 8 = 48$, $6 \times 7 = 42$, $6 \times 9 = 54$

五の段四の段三の段等でも見られる通り極めて顯著である。

5、各段を比べると七の段八の段が最も難、五の段が易いのは結果が簡單のためか、九の段が八の段七の段より易いのもおもしろい結果である。

6、中には一般性から餘程離れたやうに思はれるところもある。例へば $3 \times 3 = 9$ の指數が高く表はれたこと、これは調査方法の缺陷ではないかとも思はれる。又七の段が八の段よりよく出來たのは、教授上幾分こゝに力が入つたためではないかといふ疑

普通の模型や地圖では、あこがれの國旗をそなたやすくたると言ふことは困難だ。それはやはり、相當いつまでも軟か味をもつ「盆景」を利用するが適當だと思はれた。こうした事變的のものを取扱ふ事が必ずしも良い方法だと言はぬが、私達はいつても、或る機会をとらへて、兒童を指導して行くと言ふ態度は肝要なことと思つてゐる。

(三)「盆景法地理模型」の特質

讀圖力の養成が地理指導上大切なことは、今更ら論を待たない。而して、其の讀圖力に最も効果あると思はれるのは、地圖模型を作ること、その製作過程に於て、頗る價値を有するものである。其の地圖模型にもたくさんある。例へば私の前に述べましたものだけ比較しても、

- (1)「ボール紙法」によるもの、
精密な模型は出来る。教育的効果は充分あれど、多額の費用と、多大の努力と時間とを要し、臨時製作するには、やゝ困難である。
- (2)「塑像法」によるもの、
經費、努力、時間を要しないが、精密に作るには適しない。随つて趣味も湧かぬやうである。これは經驗上のことである。
- (3)「盆景法」によるもの、
經費、努力、時間を要せず、然も正確簡單、且つ作り換へが自由である爲めに趣味も湧き尙創作的に製作することが出来る。結局「早く正しく出来る」と言ふ事で、これは到底前二者の比ではない。三、四時間か、れば一地方は完全に出来る。「塑像法」も早く出来る點では、「ボール紙法」よりは早い、それでも

を待つこともないので、主材料としては不可である。

(ロ)白土

「ヘナツチ」の呼稱がある。白色粘土、地下數米の所に一定の層をなす「酸性白土」。普通の所には無い。粉末として袋詰めなのが盆景關係店にある。髮洗粉を代用しても面白い。

(ハ)その他土砂類

以上「ケト」「ヘナツチ」以外には、無理にいらぬが、もしあれば非常に美麗に出来る。例へば、ボカ土、黄土、川砂、海砂、砂利、白砂、各色砂等、「盆景」に關係あるものは、これらの材料はともにある品々である。

(ニ)繪具類

- (A)トノコ(との粉)……(褐色用)十錢十五六回使用出来る。
- (B)ベニガラ(紅殻)……(赤色用)十錢で十回分位使用出来る。
- (C)オーエン(黄鉛)……(黄色用)二十錢で數回分使用出来る。或は黄はオーラミンを使用してもよい。
- (D)キンペロ……(青色用)十錢で十回分位使用出来る。
- (E)圖畫用白繪具……(白色用)
- (F)その他

(ホ)植物藓苔類及置物

松杉檜等の小さきものを山岳地方にさし、藓苔類を生し、海に舟、或は丘に家を配するなどは、兒童に如何に興味をそゝらしめるか……
あなたがち高價な盆景用の置物を利用しなくと

仕上げる迄には乾かす仕事があるので一週間はかゝるのである。
此の「早く出来る」と言ふことは、とりもなほさず兒童の製作慾をたらしめるものであらう製作慾の出ると言ふことは兒童指導上極めて大切且重要なものであつて、如何に此の方法が、理想的に近いものであるかと言ふ事をうなづく事が出来ると思ふ。

(四)材料及び準備の吟味

(1)基本地圖

普通使用の「地圖」を基本にすれば結構である。尙、「模型白地圖」の打ち出した地圖を參考にするのもよい。

(2)製作上の材料

(イ)化土

普通「ケトウ」と訛る。昔池沼水邊に繁茂し芦、蒲生、眞菰類の植物が地下に埋没されて數百年の長い年月をへて出来た腐植土で、水を加へてねると、弾力性と粘力を生ずる。是れが主材料で、保存次第によつては何回にても使用し得る。一呎三圓から四圓見當、盆景關係店には何處にもある。一呎で一ぺんに四地方位は出来る。只、冬期凍らせたものや風にさらして乾燥しきつたものは、弾力も、粘力も薄いから、容器に入れて乾燥せしめないうやう、又凍らせないうやう保存することが大切である。

田の粘土も使用し得ぬ事もないが、水の吸収の關係や、きれつを生じたり、或は腐敗して臭氣を生じ、永く使用することも、一定の形

も、田舎にはいたるところ、植物あり、こけあり、きのこあり、砂利等あるから、それらを利用して、是非自由に置かしたい。創作的材料ともなるべきものである。

(3)製作上の用具類

(イ)水盤

大きい程よいと思ふ。これだけは特別製か何かで作る必要がある。盆景用の間にあへばそれでよい。セメントで製作するのがよいと思ふ。但し一個で充分。縁は必ずつけるが、あまり高くない方がよい。持ち運びに便のやうに作る必要がある。

大體、日本の各地方を主體とすれば縦八十種横一米位でよいだらう。これで五十萬分の一内外の梯尺の地方が大體とれる。尙、一個の水盤を利用する場合には、水盤上に豫じめ、色の異なつた「エナメル」で各地方の略圖を描いておくと、兒童及び指導者にとつて非常に便利であると思ふ。

(ロ)ヘラ

竹自製で結構である。盆景用のものなら更らによろ。

(ハ)大小筆頭

書方用筆で充分である。

(ニ)皿 數

繪具類をとかず。割煮用のものでまにあはせてもよい。但し、餘り小さいのや、くつついてゐるものは避ける方がよい。小さいと、又

ひもあるやうに思ふ。
7、結局難易は、(イ)數の大小關係、(ロ)發音語呂の關係、この二つの主要カーヴの合成されたものがその骨組をなしてゐるやうである。

四、教育的利用について

本圖表が如何なる程度に一般性をもつかが甚だ疑問であることは前述の通りである。而も兒童の各個人に個性あり、その集團たる學級に個性あり、教師に個性がある。然しながら若し本圖表に或程度の一般性を認め、被教授者も或程度の一般型をなしてゐることを假定するならば、(イ)教へる場合に難と知れてゐる個所を特に注意して取扱ひ、(ロ)練習を積むに従ひ何時までも同じ調子でなく易とするところは練習を省き又は軽く取扱ひ難とするところに主力を注ぐ等、方法上の參考資料とすることも出来るやうかと思ふ。(編輯の都合上圖表をばく)

小店員募集

本年高等小學校卒業ノ見込ニテ身體

壯健ニシテ温順ナル者

舎内ニ住込ノコト

希望者ハ自筆履歷書ヲ要ス

先生方ノ御周旋ヲ御願シマス

横濱市中區住吉町五丁目

横濱活版舎

電話長者町回(00)七五六番
00八八八番

作る、作つても前と同じ色が再びつくりにくくなるから、後者のは混じるおそれがある。別々で、一色の繪具類をとさせる皿類と言ふことになる。

(ホ)バケツ、金だらひ類

化土をこねませあはせるものであるから必ずバケツ、金だらひとは限らない。

(ハ)もしあつたら「スポイト」

水を吸ひとる。無ければボロ布を代用してもよい。又ボロ布は別の方面で使はれる。即ち仕上げてからまはりをきれひにふいたりぬぐつたりする時用ひられる。

(五)製作實際の順序

準備、材料の吟味が終つたら、愈々製作にとりかかるのであるが、兒童にやらせる場合も、手傳はせる場合も必ず「目的」を明瞭にしおくべきである。何の地方を、どの國を何處の洲を製作するのか、不明瞭の時には、興味も創作も湧いてこない。「目的」なき仕事は「作業」とは言ひ得ない。

繁雜を避ける爲めに、重要な順序を、大切な點を次に個條的に綴る。

(1)基礎的作業

(イ)目的の決定

(ロ)水盤に地圖(略圖でも可)を描く仕事

前述の様に水盤上に豫じめ、各色で地方別に「エナメル」描きをしておくと便利。

(ハ)化土をぬる仕事

よく粘る程よい。始め水加減を指導する。大きな、にぎりむすびのやうな團子をたくさん作る。

(2) 主作業

- (イ) 團子をつんで海岸地方より作り始める。
- (ロ) 大體の形を手で作り、「基本地圖」を見ながら「ヘラ」で形を直す。
- 若し、兒童に比較的正しく製作させようとするには、標高比例釘を、時々、所々入れてやれば仕事も容易で早く仕事が進む。勿論この比例釘は「塑像法」の時とはちがつて、底が石か、トタンであるから始めからうつことは出来ないから、出来つゝある時入れてやるのである。
- 勿論指導者が主になつて行ふ場合は、熟練によつて、比例釘等うつ必要を認めないばかりか、かへつて繁雜になる。
- 但し此の場合、兒童が側でみてゐるとすれば、指導者は特別なものは説明しつゝ製作すべきである。例へば「これが富士山だよ……」「これから甲府盆地をつくらうかな……」「又相談的に「さあ今度は何を作らうかどこを作らうかな……」等と言つた場合に。「ヘラ」で形を直しつゝよくなる。
- (ハ) 「ヘナッチ」をとかして全體をぬる。筆や「ヘラ」で形を直しつゝよくなる。
- (ニ) 「トノコ」をとかして、山地高地をぬり、よく「ヘラ」で立派な形に整へる。
- これで大體の形がとつたから、後は私の所謂「人は今迄の苦心も知らず、只仕上げをみて鑑賞批評する……云々」と言ふ、良くも、悪くする大切な作業である仕上げ作業にうつるのである。
- (3) 仕上げ作業
- (イ) 山岳地方

- (A) 「トノコ」と「ベニガラ」を混ぜてぬり、やゝ乾いてから、「キンペロ」と「ベニガラ」を混ぜて、山の黒い部分をぬる。
- (B) 尚山頂の雪の様な部分を白色にするのも面白い。若し盆景用の白砂があれば「フルヒ」でふるとうまくかゝる。
- (ロ) 平地地方
- (A) 平野は「オーエン」「キンペロ」を混ぜて緑色を作つてぬる。若し盆景用の緑の色砂があれば自然的に出来る。
- (B) 河川、海岸、湖沼は「キンペロ」でぬる。海岸地方は、盆景用の白砂があれば波も自由に出来て、實はなんとも言はれぬ味が出る。
- (ハ) その他
- (A) 鐵道
- 白繪具で線を描き、黒色(キンペロとベニガラを混ぜる)をぬる。木綿白糸でもよい。尚豫じめ市松式のやうなものを印刷しておいて、切つて貼ればきれいで簡単に出来る。
- (B) 都 邑
- 丸く切つた紙でもよい。又前の黒色にぬつて表してもよい。
- (C) 丘の部分の置物、藪苔、植物類
- 橋、家、杭、植物、藪苔類等置物類を利用してやると興味的で且創作的である。
- (D) 海には舟を浮べ、水が深ければ金魚小動物魚類を飼へて喜ばれる。勿論こゝろしくても海には出来るだけ水をはつて乾燥を防ぐべきである。

これらは低學年に自由にやらせると思はぬ收穫がある。(C)(D)はとくにまたやらせて欲しい所である。

(E) まはりきれいに掃いて、動かぬ臺の上のせる。高さは、白よりやゝ低い方がよい。

(F) 地方の見出し、梯尺、方向等出来たらそつち言ふ地理的條件を入れれば、非常によいと思ふ。

(六) 結 び

- 前の「塑像法」による地理模型の指導の時、中的一项として「尚鳥瞰圖的に或は盆景的に小植物、芝生等を入れて仕上げるやうな場合はやはり最初から品々を用意すべきである」と極く概念的に述べたが其の發展的なるものと見れば見る事が出来る。
- 未熟ではあるけれども、机上の空論に過したくないと思つたから、又一番簡単な模型の作り方だと思つたから、尚一番興味的な模型のつくり方だと思つたからである。
- とにかく此の種の模型製作に對して、標準を次の諸點においてゐる。
- (1) 大模型(地圖の簡單なもの、梯尺の大きなもの、例へば全世界、關東地方等の如き)にも部分的模型にも適す。
 - (2) 大模型は比較的近きもの、既習のもの地形的に簡單なもの(臺灣、樺太等の如き)等より始め、部分模型は、いつも眼につく景色より製作し、興味をそそぐ。
 - (3) 一地方學習中保存し、他地方にうつる時新たに製作する。若し水盤が二個三個と出来た場

雞 肋

太刀川總司郎

鳥 と 鶉

合は、盆景本來の目的のやうに鑑賞用とする尙事變的な活用もする。

(4) 時期を問はぬ。冬は寒いか、つめたいとか適しないとか、凍るとか叫ばれるが、それ相當に準備として何時でも製作する。

打てば火の出るやうな教育的熱と愛とがあれば、たとへ一つの模型でも、簡単な材料でも作りたい氣になり、又作らせた氣にもなる。

終りに、此の「盆景」の實際の指導に當りては、當校の栗原愛之助氏(盆景孤山流傳)に、模型指導に當りては、静岡縣沼津市沼津第三小學校長堀田房五郎氏(全國的に有名な研究篤學の校長)によるところ多々あることを付け加へ、貴き紙上を汚したことをおわびして擱筆いたします。終(昭和十二年十一月三十日記)

三浦郡の歴史めいた物には、いつも引用されてゐる例の持統記の記載である。その六年五月の條に、「辛未相模國司。獻赤鳥鶉二隻。言。獲於御浦郡。」又「秋七月甲午朔乙未」の處に「賜相模國司布勢朝臣色布智等。御浦郡少領與獲赤鳥者。鹿島臣權禰。位及祿。服御浦郡三年調役。」とあるが、赤鳥が唯珍らしいだけであつたらうか。又赤鳥とは實際どんなもの

か知らないが。朝廷では之を御嘉納あらせられた處を見ると、何か由来があるのではないか。南方隨筆を讀んだら次の様な事が見ついた。五雜俎に、舊説鳥性極壽、三鹿死後、能倒一松、三松死後、能倒一鳥、而世反惡之何也。

又、抱朴子には、丹を牛肉に和せて未だ毛羽を生ぜぬ鳥に吞ませると、成長して毛羽皆赤し、其を殺して陰乾にして擣服む事百日すると五百歳の壽を得、とあると言ふ。その書物が出来た年代を云々するのは無用である。古くからこんな信仰めいたものが彼の國にあつたとすれば、前記持統記も解せられるやうな氣がする。尤も本草集解には「武王伐紂時、渡孟津、有火自天、止於王屋、爲赤鳥」抱朴子には、感發火精、生朱鳥とあり、尙本草集解にも蜀徵有火鴉、能衝火などあるさうだけれど、五百歳の長壽が目出度いではなかつたかと思ふ。ついでにも一つ五雜俎を孫引して載くと、「洞庭有神鴉、客帆過、必飛噪求食、人以肉擲空中哺之、不敢捕也」とあるが、三浦の走水觀音と風土記にある今の鴨居の觀音寺縁起の中に「往昔此山群鴉競集、巨蟬窟宅、其爲害也不鮮矣、方舟子張風漁者駕波之際、鴉先飛來相尋、蟬出於穴便覆舟」云々とある。鴉が偵察飛行をやるといふのであるが、何か洞庭の話に似てゐるやうだ。

此の縁起は慶長十七年に靈屋といふ坊さんが記したものだと言ふ。似たやうな話が他にありましたら御教示下さい。

靈屋と行基

觀音寺縁起を書いた靈屋といふ人は、その頃三浦ではよほどよい地位に居つたと見えるが、新記からぬき出しただけでも次の通りである。第一に横須賀の良長院は、もと沼間の海寶院のあつた所で、それが元は良長院と言つたのを、家康入國後、沼間に移つて海寶院と改號したのである。然るに正保年中僧高なる人が、横須賀の舊地に一字を建立して、良長院の名を襲ひ、且つ海寶院の末寺に屬し本寺二世靈屋和尚を招待開山とし、己は二世に居つたといふ。第二に赤星直忠氏の研究で有名になつた曹源寺は長谷川長綱が再建した時、靈屋禪師を延て中興開祖とし、此の時寺號を今の文字に改めたとあり、第三に走水の大泉寺中興、第四同じく佛崎山觀音寺の建立、第五鴨居の能滿寺を草創、第六小網代の海藏寺も靈屋を開山と稱してゐる。この人は寛永八年七月二十九日入寂とだけ分つてゐるが、どこが入寂の地であるか未詳である。良長院現住職は筆者と俗縁ある長岡の故赤柴哲禪師の知己であられる由を聞いて、赤柴氏の紹介を得る筈を、師が昨年末示寂されて機を失つて居る。良長院で伺つたら或は靈屋禪師についてもつと多くが分るのではないかと思ふ。兎もかく當時半島の宗教界に大きい勢力があつた人にちがひない。

これと共に眼につく事は、この半島には、行基菩薩の信仰がひろかつたらしいと云ふ事である。本尊行基作と稱してゐる寺は左の如くである。鴨居の觀音寺及能滿寺の藥師堂

逗子	法勝寺	同上	延明寺
下山口	萬福寺(藥師堂)	佐島	觀明寺
長井	善慶寺	同上	滿福寺
本和田	安樂寺	三崎	海藏寺
三崎	海藏寺藥師堂	菊名	永樂寺
衣笠	不動堂	同右	法昌寺

同 右 大善寺 久里濱 藥師堂
 横須賀 曹源寺 上平作 不動堂
 津久井 東光寺藥師 大津 信樂寺
 又、行基の開基とか、勸請とか、駐錫とか、行基に
 所縁あるが如きものは、
 逗子 藥師堂 同上 延明寺
 久野谷 岩殿觀音堂 長井 長徳寺
 津久井 東光寺 衣笠 藏王権現
 上平作 白山社 野比 最光寺
 などである。どうしてこんなに行基菩薩關係が多い
 か。宗派の傳播や變改などについて何かを語るもの
 ではなからうか。尙又十一面觀世音の本尊又は寺實
 などとあるものは、自分の知つてゐるだけ(四十二
 ケ寺)の内でも、二十ヶ寺、即ち約半数の多きに達
 する。無駄な詮議かも知れぬが何かの時に役に立ち
 さうな氣もする。雞肋と題する所以である。

泣き佛

各地にある話で珍らしくもないが、實物を眼前に
 見るのは自分は初めてである。これは横須賀の縣立
 中學校に近い蕎麥屋の阿彌陀様で金佛である。朝、
 御茶と御飯とを供へるとビーンとお泣きになる。近
 くは鎌倉の海藏寺や、鎌倉在の泣き塔や、遠くは羽
 後牛島の「めろり觀音」日光慈眼堂側の泣き地蔵、
 越後彌彦の泣佛など全國には数多い事であらうし其
 の由来もいろいろであらうけれど、こゝのは何のい
 はれもない。赤星氏の調べでは佛體の一部に小穴が
 あるから、そのせいではないかと言はれる。或は左
 様かも知れないが、自分の考へでは、佛自身でなく
 て、茶飯を供へる器物に原因するやうに思ふ。人の
 佛壇であり、且つ泣き給ふ故に特に尊敬の念を高め

てゐる人達の感情をも考へるから、餘り立ち入つた
 調べは出来ない。しかし、古い昔から、いろいろと
 奇瑞を示した話を、たゞ話とのみしてしまふ事は考
 へ物である。現在でも、前記の様な佛様があつて、
 科學的に物を考へる事を知らない人々に、驚異と尊
 敬と、時としては迷信をさへ與へてゐるのであるか
 ら。邪教撲滅も中々容易な事ではない。迷信を排除
 しつゝ宗教々育をしやうとすれば、尙更の事で、其
 の任にある者は、深く廣い知識と、慎重な用意がな
 くてはなるまい。とつくづく考へさせられる。

タヤの風俗

これも民俗を研究する人々には、珍らしい事では
 ないが、三浦にはまだ其の證據が見されてゐな
 かつた。以下に記す如きは、或は其の例ではないかと
 自分は考へる。
 田浦町の追濱驛前から、航空隊へ行く特國道の右
 手の方に、築島様といふ一區郭があつた。(今はよく
 分らなくなつた)こゝは昔は島のやうになつてゐて
 月ごとの生理的故障の起つた婦人達は皆こゝで共同
 生活をしつゝ過したと言ふ事が、こゝの雷神社の由
 來記に織り込まれて、田浦町誌に載つてゐる。町誌
 の編者はどう考へてゐられたか知らぬが、是は明か
 に各地で、他屋、タイヤ、月小屋、タヤベヤ、ヒマ
 ヤなどと云はれるものと同一である。此の研究は民
 族と歴史一ノ二から四あたりまでに、澤山に記
 載されてゐる。

三崎町の花暮に忌が崎と言ふ所がある。是は自分
 が曾て民俗學第五卷に報告として記した事があるが
 もと祭禮の時には、氏子中に其の年の服職あるもの
 は此處に避けて居り、神事が終つたら家にかへる事

となつてゐたと言ひ、之を出居と言つたと古尋録に
 あるが、現今ではデットと言つて居り、お神樂のあ
 がる時だけ自宅に居らねばよい事となつてゐるし、
 且つ喪中にあるものを指して居る。けれども思ふに
 前記のタヤと何等かの關聯があるのではないかとの
 想像するのは如何か。

向井氏のこと

三浦の歴史は三浦一族に終始してゐるかの如く思
 はれてゐるが、北條氏、徳川氏の頃をもつと明瞭に
 してはならないと思ふ。

長谷川長綱と靈屋との關係、長谷川と向井との關
 係など江戸期に入つてからの事柄でも、まだ多く調
 べ残された問題がある。向井氏については其の關係
 事項と共に別に自分の小研究があるけれど、こゝに
 は其の一小部を記すに止める。

向井氏に關する在來の記述は多くない。三浦郡誌
 新記、古尋録と故北村包直氏の湘南半島及佐藤善次
 郎氏の三浦大觀など位であつて、殊に後の二種は僅
 かに一二行の記載である。其の内、三崎見桃寺の項
 に「寺に向井政綱及忠勝の木像を置く」向井政綱、
 同忠政及忠勝の母の墓あり(郡誌)向井將監忠勝、
 政綱の墓の左側に在り。陽岳寺殿天海玄祐居士、寛
 永十八年十月十四日と彫る。(同前)向井正綱の開
 基にて正綱、忠勝父子の木像と、正綱の墓とがあ
 る(湘南半島)

向井政綱は寛永重修家譜によつても、見桃寺に葬
 る、とあるから間違はなからうが、歿年は系圖に寛
 永二年三月二十六日とあるを、郡誌には元年甲子と
 ある。元年は正に甲子に當るが家譜には二年とあ
 る。それから、北村氏は見桃寺に忠勝の墓があると

は記されて居ないけれど、郡誌には在ると記し法名
 まで書いてある。法名と云へば前記正綱の法名も、
 郡誌には玄龍、家譜には玄立とある。この忠勝の墓
 は事實見桃寺にある事はあつても、家譜によると、
 東叡山本覺院に葬るとなるからそれが眞實の墓であ
 らう。少くとも初の墓であらう。歿年も家譜には寛
 永十八年十月十四日と記し法名玄祐今は宗心とあ
 る。然るに見桃寺のは歿年が一致し法名も陽岳院殿
 天海玄祐居士とあつて、これも違はないが、讀史備
 要には眞珠院月峰宗心として(今は)の方をとり、
 歿年月が寛永十八年七月とあつて日が入つてゐな
 い。忠勝は海南神社の神橋を寄進して之に、(擬寶珠
 の銘)相州三浦郡海南神社前橋、向井左近將監忠勝
 寛永十七庚辰九月吉日と記してある事などから見て
 見桃寺にも縁が深かつたであらう(勿論父の墓など
 あるから)が、十八年七月歿、法名月峰宗心眞珠院
 の記載は野史にあるのと同様なのである。何れが眞
 か。又忠政といふ名が出てゐるが之も野史には見え
 てゐて、家譜には見當らないのである。法名の太清
 院賢岸竹翁は記載があつても歿年月は不明である。
 曾て長井町の鈴木與助氏を訪問した事があるが、
 其の時こゝに保存された向井氏系圖といふのを見て
 寫して來たが、これによると、向井氏の祖は向井式
 部大輔政隅とあり、紀州田邊で三十八歳で討死して
 居り、其の嫡子は長勝で治部少輔、伊勢の田丸で基
 の争ひから人を斬つて自分も切腹した事になつて居
 り四十二歳で歿してゐるが、家譜には政隅の名が見
 えす、長勝の父は式部大輔長晴で、紀伊の田邊で五
 十四歳で討死してゐる。假に政隅が長晴としても歿
 した年が違ひすぎる。庶流の政香の呈譜と一致せぬ
 處がいくらかあつたらうし、先祖調べとなると困難

なことになるのは當然であり、且つ系圖の確實性
 が、どの程度のものかは人の周知する所であるが、
 尙系譜には政をとらず皆正であるのに、一般には
 政を宛てゐる。これは鈴木氏所藏のもの一致す
 る。郡誌の編者も相當研究されたと見えて、海寶院
 や貞昌寺の墓誌と鈴木氏所藏のものとを對照し、忠
 勝の卑系に稍疑問を存すれども、と書いてゐるが、
 尊族の方だつて不明瞭なのである。しかし、半島海
 上防衛に功績のあつた人々を、あまり世に知られぬ
 まゝにして置くのは惜しい事であるから、機を得て
 充分調査の結果を發表したい。長谷川家との關係も
 明瞭になつて來てゐる部分もあり、尙靈屋禪師との
 關係もやがて明白になるであらうと思つてゐるがも
 し先進の方があつたら御教示を願ひたい。貞昌寺の
 墓誌銘は、赤星直忠氏の助力により、郡誌編者の不
 明とした處が明かとなり、自分の他方からの調べと
 も一致してゐるのである。赤星氏に感謝の意味で書
 添へて置く。

地名のこと

現代語で分りにくいと、アイヌ語を持ち出す風が
 あつた。いや今でもあるが、これは慎重にする要が
 あらうと思ふ。根岸や森崎をアイヌ語とすると自分
 の研究などには都合がよい事になるけれど、これは
 矢張り古い言葉で其のまゝ意味をなして居る。地形
 を見れば分る事だ。浦賀のアラマキは焼畑であり、
 即ち畑と言ふ文字に充分の意義を與へるし、ドウミ
 キはドウメキで百女木のことであらう。

今、横須賀のドウミキは道路の改善の爲に元の地
 形が不明になつたけれど、十年前の様を見れば、う
 なづけない事もあるまい。

多々良は勿論鍛冶工の居た事を物語る。マブリは
 今、馬堀と書いてマボリと讀んでゐるけれど古くは
 やつぱりマブリであつた。
 馬に關する傳説や、馬頭觀音などと併せて考へて放
 牧場を想像したつて無理ではあるまい。マブリはマ
 ブルからだと言つても。
 沼田とか竹ヶ崎とかも、古い地方の言語から解せ
 られる道はある。アイヌ語を持ち出すことは、日本
 語でない事を確めてからでも、決して遅くはあるま
 い。(此項終)

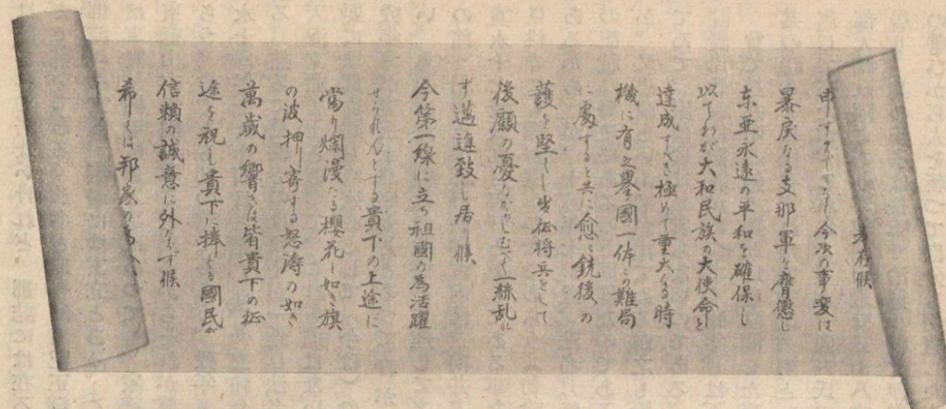
廣 告

教育界引退につき辱知の
各位に御挨拶

謹啓時下嚴寒の折柄益々御清穆被爲涉候段奉恭賀候
 陳者小生儀今回現職を退き愛國婦人會神奈川縣主事に
 就任致す事に相成申候
 回顧すれば明治四十二年津久井郡根小屋小學校長を拜
 命、爾來津久井郡協心小學校長、鎌倉郡視學、桶樹郡
 視學、神奈川縣視學、浦賀小學校長、葉山小學校長、
 高津小學校長を歴任して今日に至る迄實に廿九ヶ年の
 星霜を経過致申候此の間公私共に多大なる御懇情を垂
 れ給ひたる段洵に難有存申候故に多年從事したる教育
 界を去るに臨み是迄數々の御厚意に對し謹みて深甚な
 る謝意を表し申候尙今後不相渝御交誼を賜り度奉願候
 先は乍略儀以紙上御禮の御挨拶申上度如斯に御座候
 昭和十二年一月

齋藤篤太郎

勸先 神奈川縣臨内愛國婦人會支部
住所 横濱市鶴見區東寺尾一三二四



「兵隊さん元氣でね」と愛らしい児童の筆で誌したものを特に使用した。(寫眞参照)

銃後の護

その一 出征祝

今次の事變に當り縣下學校教職員にして應召せられし諸勇士に對し本會は縣下九千の教職員三十有餘萬の生徒児童の總意に依り次の如き出征祝の書翰に餞別として教職員には金拾圓教練指導員には金五圓を添へて送つた。

肅啓貴下には今次の事變に當り

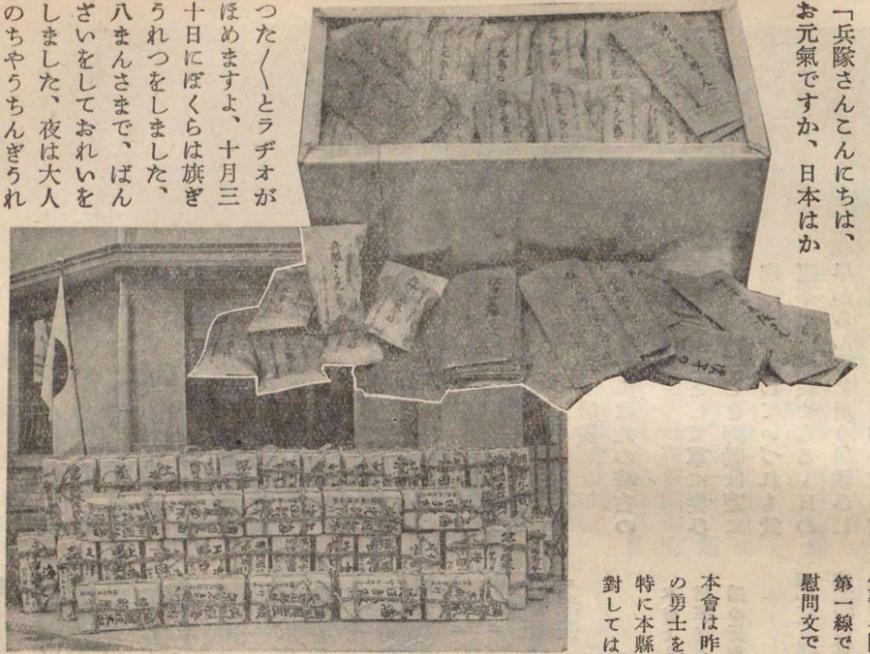
陛下の股肱として愈々御出征の段御家門の御榮譽は勿論郷黨の上なき誇にて寔に慶祝のいたりに奉存候
申すまでもなく今次の事變は暴戾なる支那軍を膺懲し東亞永遠の平和を確保し以て日本民族の大使命を達成すべき極めて重大なる時機に有之學國一致この難局に處すると共に愈々銃後の護を堅くし出征將兵をして後顧の憂なからしむべく一糸亂れず邁進致し居り候

今第一線に立ち祖國の爲活躍せられんとする貴下の上途に當り爛漫たる櫻花の如き旗の波押し寄する怒濤の如き萬歳の響は皆貴下の征途を祝し貴下に捧ぐる國民の誠意に外ならず候
希くは邦家の爲愈々御健闘益々其武功を積み名を千載に垂れさせられんことを茲に縣下九千の教職員三十有餘萬の生徒児童に代り謹みて貴下の征途を祝し併せて武運の長久を祈り上げ候 敬具

その二 陣中見舞

昨年十一月第一線に活躍せらるる海陸の將兵へ陣中見舞として縣下小學校生徒児童一同より「スイートマーブル」一萬七千五百袋に可憐な慰問文を添へて送つた。尙慰問文入の封筒は「私達の兵隊さんへ……祖國か

「兵隊さんこんにちは、お元氣ですか、日本はか



らおたより」慰問品の包装袋には「甘いお菓子を差上げます……兵隊さん元氣でね」と愛らしい児童の筆で誌したものを特に使用した。(寫眞参照)

その三 白衣の勇士慰問

本會は昨年十二月左記諸氏を代表として陸海軍病院に白衣の勇士を慰問し御菓子料として各病院に金五十圓宛を贈り特に本縣の教職員及教練指導員にして戦傷入院中の諸士に對しては個別に訪問見舞金を贈り懇に慰問の言葉を呈した

- 甲府陸軍病院 (十二月十七日)
- 神奈川縣教員共濟會主事 高城 研氏
- 横濱市戸部尋常小學校長 齋藤元 近氏
- 横濱市共進尋常高等小學校長 古平 敬雨氏
- 横須賀陸海軍病院 (十二月十七日)
- 神奈川縣師範學校長 佐藤禮云氏
- 横須賀市豊島尋常高等小學校長 佐久間房吉氏
- 三浦郡鴨居尋常小學校長 加渡田武男氏
- 鎌倉郡戸塚尋常高等小學校長 森久保敬次氏
- 中小學校生徒児童代表 八 名
- 東京陸軍病院 (十二月廿七日)
- 神奈川縣女子師範學校長 結城權兵衛氏
- 神奈川縣立川崎中學校長 五十嵐米八郎氏
- 横濱市吉田尋常高等小學校長 宮川仁三氏
- 高座郡藤澤高等小學校長 仙田四五郎氏

その四 戦死將兵遺族への敬弔

事變下の日本と

青砥藤網

川崎市櫻木小學校 長野義一

縣下都築郡中里村は私の故郷である。その中里村の南部に字青砥がある。小さな一村落であるがここは鎌倉時代に滑川に落ちた穴銭を人夫をやとつてさがせたので名をなした青砥藤網の所領であつたと傳へ田圃畦畔上に青砥藤網の墓碑と稱せられるものが現存する。この墓碑が果して藤網のものであるかどうかは議論せらるべきであらうがその眞偽はしばらく置いて郷土への愛着からその墓碑は藤網のものであるといふ感動にひたらせて頂いて今事變下の日本と藤網の物語とを結びつけて考へてみたいと思ふ。

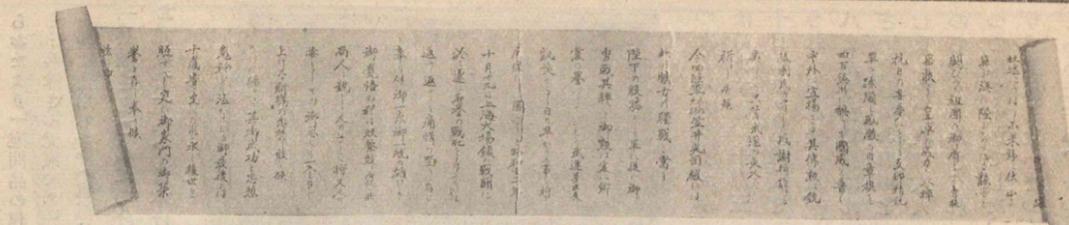
藤網が十文銭を滑川に失つて云々の話は自分が未だ八九歳の頃から誰となしに聞かされた話である。これはいはゞ小童をして錢貨の貴重さを感じしめる爲の方便としてその頃盛に世の親達が使用した訓話であつたのだらうがそれ程又藤網は有名であつたのである。それ程有名であつたのだからたとへしかとした記録が残されてなくても實在の人物として取扱つても一向差支へがなからうと思ふ。又實在の人物とした方が教育上充分効果的であるのは今更にはすもかなである。

藤網について富山房の國民百科辭典には簡単に次のやうに記してある。
あをと……ふぢつな(青砥藤網)鎌倉時代の士。

上總の人性剛直廉潔權貴を憚らなかつた。北條時頼時宗の二代に仕、左衛門尉引付業。曾て徳宗領(北條家督領)の境界争を公平に裁決して本主に歸し、又滑川に錢十文を探つたことは人口に膾炙、星野恆考證架空の人物とするが未だ論據薄弱。
とにかくこれだけによつてみると藤網は尊厳すべき武士であつた。剛直廉潔の士なんて今時さうざらにあるものではない。時變下日本と青砥藤網について書くのであるからこの剛直廉潔の點を皇威洽く伸展する所に植え付けて剛健實實な民族の發展を期することも大いに意義ある事であるが、自分の今言はんとする所はかの十文銭を探る所にあるのである。

私が小さい頃は藤網の物語ばかりでなく松火を掲げた下郎二人が滑川に錢を探るのを藤網が指揮してゐる繪がよくあつたものである。私は事實その繪を見て少しも感動しなかつた。むしろ愚かしくさへ感じてゐた。川に落ちた錢を夜探るなんといふ事や、下郎二人まで使つて十文の錢を探るといふ不經濟な事は子供心にも賛成出来なかつた。又それを賞する大人の意圖がわからなかつた。唯子供達に小使錢を使はれたくないといふ一種の賤しさだけの所有であらうかなんといふ甚だ怪しからぬ想像さへしたものである。事實又この想像の通りであつた大人達もあつたであらう。藤網こそいふ面の皮である。

さて其後漸次自身の考への誤つてゐる事に氣附いていつた。といふのはつまり藤網は矢張偉いと感じてきた事である。曾て私が藤網のなした事柄を不經濟な算術計算の頭腦がないかまで思つた事は私が個人主義的な考から唯一人藤網だけの利得問題にしか考へ及んでゐなかつたからである。茲が近代日本國民精神の動向に關聯して考へねばならぬ所である。



今次の事變に名譽の戦死を遂げられし諸勇士の遺族に對し縣下九千の教職員三十有餘萬の生徒兒童に代り會長は次の教弔文に教職員遺族には五十圓教練指導員の遺族には金三十圓其他の遺族には金五圓の弔祭料を添へて送る

謹啓今次の事變に際し暴支膺懲の爲皇軍の將士は勇躍壯途にのぼり爾來野に伏し山に寝ね海に陸にあらゆる艱苦と闘ひつゝ祖國の御盾として勇猛果敢よく皇軍の威力を發揮し抗日の妄夢にをどる支那精銳軍を蹂躪し感激の日章旗を四百餘洲に翻して國威を普く中外に宣揚せらるる其偉勳は銃後國民の等しく感謝措く能はざる處にして只管武運の長久をのみこれ祈り居候

今回何某殿には此の曠古の聖戰に當り

陛下の股肱として軍に従ひ御勇戰其輝しき御勳は寔に郷黨の譽にしていづれも武運芽出度凱旋せらるゝ日の早からん事を祈り居候ひしに圖らざりき昭和十二年何月何日何處の戰鬪に於て遂に名譽の戦死をとげさせら

その五 南京陥落の祝電

兼に本會は總會の決議に依り出動將兵の勞苦に對し感謝の電報を各司令官宛發送せしも客年十二月十三日南京陥落に際しては次の祝電を松井寺内兩最高指揮官第三艦隊聯合艦隊兩司令官並津田部隊長宛發送した

南京攻略前古未曾有ノ大捷ノ報ニ接シ國民ノ歡喜其ノ極ニ達ス神速果敢克ク皇軍ノ威力ヲ發揮シ國威ヲ中外ニ宣揚セラレタル將兵各位ノ御勞苦ニ對シ神奈川縣下九千ノ教職員三十有餘萬ノ生徒兒童一同ハ茲ニ深甚ノ謝意ヲ表シ併テ武運ノ長久ヲ祈念シ奉ル

その六 派遣軍指揮官より書翰

本會より送りし慰問品慰問文感謝電報等に對し夫々派遣軍指揮官より鄭重なる書翰を本會に寄せられたるは軍務御多端の折柄却つて恐縮して居る

(一)

拜啓當部隊に對する郷土の熱誠なる御後援は一同の感謝に堪えざる處に御座候

今回は復た御鄭重なる御慰問の辭を忝うし候段厚く御禮申上候以御將兵の士氣益々旺盛に有之國防警備の重任を完うして各位の御期待に酬ひん事を期し

今日の我帝國の發展といひ更に今事變に於ける皇軍の活躍といひその絶大なる効果といひ到底個人主義では解せない。誰が一人の利益を夢見て戦つてゐやうか、總ては一つである。皇國全體である。みくにの爲に戦ひ、みくにの爲に死して悔まず。その尊嚴な精神態度の前に自己一人の利を計るみにくさ到底辛棒出来るものでない。この自己一人の利を計るみにくさに辛棒出来ない精神が日本精神の一つの表れである。自己の利を計る事が何故みにくいかは理屈ではわからない日本精神の傳統なのである。

かく考へてくるとき藤綱が自己一人の損耗は省みず國家の爲に十文の寶錢を惜しむ精神が貴ばれてく

併し私は更に一つの問題にぶつかつた。

それは、僅か十文の錢貨を國家の爲に惜しむ事がどれだけ國家の爲になるか、といふ事である。十文を得る爲に恐らくそれ以上の失費となつてゐるではないか、としたらむしろ全體の爲になつてゐないではないか、唯その事蹟が援世幾多の兒童に對して金錢を尙ぶ精神の涵養に役立つといふならそれもよからう。しかし私が曾ていいた様な淺はかな考をもつた子供が言ひきれないではないか。十文の錢を探させてゐる間に他の方法で十文以上の利得を稼いで國家にさし出したらどんなものであらうと考へられることである。

これに就いての解決がやう／＼今事變によつて與へられた。餘程愚鈍な奴と思はれるだらうが事實は仕方のない事である。今度の日支事變は豫想以上に進捗して支那國民政府の都南京も十二月十日午後五時頃とう／＼その一角が陥落して日章旗が夕闇に高く上つたといふ。完全なる占據には尙數日を要す

拜後初冬と候益々再後務より被度後憂賀玉極に在候候除者今板前を臨臨に際し早速懇意宛と賜り御厚志難有感謝と候

時局重大なる寧ろ今後には有之將兵一同一層奮勵以て上 聖慮に對し奉り併せて九千萬同胞の倚托に副はんことを期し居候

先是不取敢以書中御禮申上度如此御座候 敬具

十二月五日

第三艦隊司令官 長谷川 清

居候茲に謹みて御禮を申上ぐると共に遙に御健康を奉祈上候 敬具

昭和十二年十月六日

○部隊長 河村恭輔

(二)

拜啓格別の御高配衷心より奉感謝候將兵一同一意爲邦家奮闘罷在候間御安心被下度候尙一段の御後援重ねて御願申上候 敬具

十月五日

司令官 香月清司

(三)

拜啓初冬之候益々御清穆に被爲涉慶賀至極に奉存候

陳者今般南京陥落に際し早速御懇電を賜り御厚志難有感謝仕候時局重大なる寧ろ今後には有之將兵一同一層奮勵以て上 聖慮に對し奉り併せて九千萬同胞の倚托に副はんことを期し居候

先是不取敢以書中御禮申上度如此御座候 敬具

十二月二十五日

第三艦隊司令官 長谷川 清

(四)

拜啓今次事變に際し早速將兵慰問の情溢るゝ慰問品の御惠贈を辱うし御厚志の段寔に感謝に不堪候

將兵一同其の職責の重大なるを自覺し堅實なる銃後の護に信倚し士氣旺盛任務達成に萬全を期し居候

先は右御禮申上候如斯御座候 敬具

昭和十二年十二月二十二日

第○艦隊副官 藤野 寛

その七 各新聞社長よりの謝電

今次の事變に従軍記者として砲煙彈雨の間に馳驅し忠烈果敢なる我が皇軍活躍の状況を迅速に報道せらるゝ各新聞社特派員の勞苦に對し兼に本會は總會の決議に依り深甚なる敬意を表し愈々其の健闘を祈る旨各新聞社長宛打電せしが折返し各社より次の如き謝電を寄せられた

(一)

本日御懇篤ナル激勵ノ御言葉ヲ拜シ定ニ感謝ニ堪ヘマセン今後益々奮闘努力諸賢ノ御聲授ニ酬インコトヲ期シマス

東京日日新聞社長 奥村信太郎

(二)

神奈川縣教育會總會ノ決議ニ依リ本社從軍記者ノ勞ニ對シ御懇篤ナル御慰問ノ辭ヲ賜リ定ニ感激ニ堪ヘズ各位ノ御賢勵ニ對シ一同益々奮闘ヲ加ヘ御期待ニ副ハンコトヲ期シ銃後ノ護ニモ亦舉國提携邁進スベシ各位ノ御健勝ヲ祈リ謹ンデ御厚意ヲ謝ス

東京朝日新聞社長

(三)

御懇電ヲ深謝ス此ノ際皇軍ノ活躍ヲ報導スルハ新聞記者當然ノ使命ナルニ却ツテ鄭重ナル才言葉ヲ賜リ恐縮感激ニ堪エズ及ズナガラ此ノ上トモ御期待ニ背カザランコトヲ期ス

るであらうがとにかく首都たる南京が我が手に歸する事は忽ちの間であることは内外共に認める處である。扱首都が陥落すれば其國は屈服の外無いのが定石であらうのに、國民政府首席蔣介石は早くも南昌に逃れ尙抗日を豪語してゐるといふ。廣大な支那領域であるから出来る藝當であるが東洋平和の爲には困つたのである。そこで我日本の態度を如何に固めるか問題である。先日國民總動員週間に於て近衛首相其他樞要の地位にある人々の演説を要約すれば支那側の長期抗戰に對して我帝國々民も充分長期の戰に耐を行く覺悟が必要である。長期抗戰に於て更に國民政府背後の力とも戦ふやうになるかも知れぬその事も覺悟せねばならぬ。この事は最悪に進めば列國からの經濟封鎖を受けるやうにならぬとは斷言出来ない。その經濟封鎖を受けた場合の我國の物資配給状態を考へてみるに元來國內に於て物資に恵まれてゐない我國であるから忽ち苦しむであらう事は火を見るより明らかな事である。

我國がどうしても他國からの物資の配給を受けねばならぬものは綿、羊毛、鐵、鑛油等で毎年綿のみでも八億圓を越えてゐる。此の外鐵製品、豆類、生ゴム、木材等相當多額の輸入をみてゐる。

そこで此等の物資は事變下の現在更に輸入超過をたどつてゐる。輸入が膨脹するに従つて金の流出を餘儀なくせられる。その金の流出に對しては何等かの統制を施さうとすれば直に爲替の變動はまぬかれぬ。經濟上幾多の動搖を來す。經濟上の動搖は國民の生活をおびやかす事最も大である。そこでさうした事態を救ふ方法は輸入超過を防ぐ事である。但し事變が續く限り軍需工業を縮少するわけにいかぬ。軍需以外の輸入品に於て國內消費を能ふ限り減少せ

報知新聞社長 野間清治

(四) 御懇電ヲ拜謝ス今後一層以テ大方各位ノ御期待ニ副フベク努力ス貴會各位ニ宜敷傳聲ヲ乞フ

大阪毎日新聞社長 奥村信太郎

その八 感激に充ちた書翰

出征勇士白衣の勇士遺家族の方々等から本會の捧げし銃後の眞心に對し何れも感激に充ちた書翰の數々を寄せられて其數既に數百通に達して居るその全部を本誌を通じて御披露したいが紙面の都合で二三を掲げることとする

(一)

今日は神奈川縣下の男女中等學校並に小學校の生徒さんや先生方の代表として、大勢の先生方や生徒代表の方々が御親切なる御慰問をなして下さりまして誠に有難う御座いました、何の飾りつ氣もない淋しい私共の病室も皆さんが一生懸命になつて持つて来て下さいました綺麗な御花を澤山に飾つて貰ひましたので病室は目の覚める様に美しくなりました、傷の痛みなんかは忘れてとても元氣になり喜んで居ります、又私共一同は御菓子料まで戴きましたので有りがたくて何とも御禮の申し様が御座いませぬ、一同は病傷の事など打ち忘れて只喜び愈々盡忠報國の精神を強くいたしました、遠い所としてとても寒かつたのに態々来て下さいまして其の上生徒さん先生方皆さん達の御親切な慰の御詞や御情深い御志を伺ひまして私達は嬉しくて涙がこぼれました、この様に懇にいたわつて頂き又私共が戦地へ出發する時にはあの暑い所を一生懸命に萬歳／＼と言つて送つて貰ひ誰も生きて歸るとは思はず元氣で出發しましたそして皆さんの御聲が何時も勇ましく耳に聞えまし

て戦地へ行つてからも皆さんが何時も自分達に着いて居ると想ひ勇氣百倍して二日も三日も御飯を食べなくても又寝なくても泥まみれとなりながら一生懸命に憎い支那兵を撃ちまくりました。然し仲々支那兵もあなどる事が出来ませんでした、それは新しい武器を澤山に持ち立派な陣地を澤山作つて居つたからです、日本兵は随分苦戦しました澤山戦死もし負傷もしましたそして毎日の戦争で随分疲れました。敵の支那兵は十倍も二十倍もの兵隊で猛烈に撃つて来るのです、いくら疲れて居ても日本の兵隊は少しも不平を言はず

しめねばならぬ、と共に從來廢物として扱つてゐたものうち再製して使用出来るものについて努めて注意を拂はねばならぬ。間に合ふ限り代用品で済ませるがよい。瓶についてゐる口金一つでも無駄にしないものだ。随分チケな話のやうであるが全國一億に近い日本人が凡て同じ精神に結ばれて實行するとなつたら口金一つと馬鹿になる話ではない。これらによつて或程度に輸入超過が救へるとすればそれだけ支那の長期抗戦に對抗し得るわけである。萬一經濟封鎖を受けた場合は尙更この事が必要となつてくる。

ここで藤網の事蹟が生きてくるといふので、藤網は天下の爲に貴いお寶として十文錢を探らせたのである。現在の日本人は凡べて藤網の精神を行動に生かさねばならぬのである。廢物利用とか物をみだりに捨て去らぬといふ事は別に努力を餘分に必要とするものではない。物を捨てぬ爲に屑箱の外に不必要品の入れ物を用意しておけばよい。貯つたら屑商人に賣拂へばよい。免倒だといふのは此際廢したいものである。銀紙とか小金屬の破行等は兒童に持たしめて學校で集めるがよい。教育上利する所も出て来るであらう。かうして全一體として進む所に輝かしい明日の日本を想見する事が出来る。

今回の事變について國民が覺悟せねばならぬ事は他にもつと／＼多く重要な事であらうと思ふがたま／＼故郷に因縁のある青砥藤網に心が觸れた爲それに關聯して事項を述べてみたのである。更に言へば數年前に流行した郷土誌の研究がそのまゝ埋もれてゐては遺憾であるのでかうした切實な時局にぶつかつて往古の人の事蹟を想起し覺悟を新にする事も埋れんとする郷土誌が生きてくる事になるではないか亂筆御諒恕下さい。(皇紀二五九七・二・二二)

報知新聞社長 野間清治

(四) 御懇電ヲ拜謝ス今後一層以テ大方各位ノ御期待ニ副フベク努力ス貴會各位ニ宜敷傳聲ヲ乞フ

大阪毎日新聞社長 奥村信太郎

その八 感激に充ちた書翰

出征勇士白衣の勇士遺家族の方々等から本會の捧げし銃後の眞心に對し何れも感激に充ちた書翰の數々を寄せられて其數既に數百通に達して居るその全部を本誌を通じて御披露したいが紙面の都合で二三を掲げることとする

(一)

今日は神奈川縣下の男女中等學校並に小學校の生徒さんや先生方の代表として、大勢の先生方や生徒代表の方々が御親切なる御慰問をなして下さりまして誠に有難う御座いました、何の飾りつ氣もない淋しい私共の病室も皆さんが一生懸命になつて持つて来て下さいました綺麗な御花を澤山に飾つて貰ひましたので病室は目の覚める様に美しくなりました、傷の痛みなんかは忘れてとても元氣になり喜んで居ります、又私共一同は御菓子料まで戴きましたので有りがたくて何とも御禮の申し様が御座いませぬ、一同は病傷の事など打ち忘れて只喜び愈々盡忠報國の精神を強くいたしました、遠い所としてとても寒かつたのに態々来て下さいまして其の上生徒さん先生方皆さん達の御親切な慰の御詞や御情深い御志を伺ひまして私達は嬉しくて涙がこぼれました、この様に懇にいたわつて頂き又私共が戦地へ出發する時にはあの暑い所を一生懸命に萬歳／＼と言つて送つて貰ひ誰も生きて歸るとは思はず元氣で出發しましたそして皆さんの御聲が何時も勇ましく耳に聞えまし

て戦地へ行つてからも皆さんが何時も自分達に着いて居ると想ひ勇氣百倍して二日も三日も御飯を食べなくても又寝なくても泥まみれとなりながら一生懸命に憎い支那兵を撃ちまくりました。然し仲々支那兵もあなどる事が出来ませんでした、それは新しい武器を澤山に持ち立派な陣地を澤山作つて居つたからです、日本兵は随分苦戦しました澤山戦死もし負傷もしましたそして毎日の戦争で随分疲れました。敵の支那兵は十倍も二十倍もの兵隊で猛烈に撃つて来るのです、いくら疲れて居ても日本の兵隊は少しも不平を言はず

しめねばならぬ、と共に從來廢物として扱つてゐたものうち再製して使用出来るものについて努めて注意を拂はねばならぬ。間に合ふ限り代用品で済ませるがよい。瓶についてゐる口金一つでも無駄にしないものだ。随分チケな話のやうであるが全國一億に近い日本人が凡て同じ精神に結ばれて實行するとなつたら口金一つと馬鹿になる話ではない。これらによつて或程度に輸入超過が救へるとすればそれだけ支那の長期抗戦に對抗し得るわけである。萬一經濟封鎖を受けた場合は尙更この事が必要となつてくる。

ここで藤網の事蹟が生きてくるといふので、藤網は天下の爲に貴いお寶として十文錢を探らせたのである。現在の日本人は凡べて藤網の精神を行動に生かさねばならぬのである。廢物利用とか物をみだりに捨て去らぬといふ事は別に努力を餘分に必要とするものではない。物を捨てぬ爲に屑箱の外に不必要品の入れ物を用意しておけばよい。貯つたら屑商人に賣拂へばよい。免倒だといふのは此際廢したいものである。銀紙とか小金屬の破行等は兒童に持たしめて學校で集めるがよい。教育上利する所も出て来るであらう。かうして全一體として進む所に輝かしい明日の日本を想見する事が出来る。

今回の事變について國民が覺悟せねばならぬ事は他にもつと／＼多く重要な事であらうと思ふがたま／＼故郷に因縁のある青砥藤網に心が觸れた爲それに關聯して事項を述べてみたのである。更に言へば數年前に流行した郷土誌の研究がそのまゝ埋もれてゐては遺憾であるのでかうした切實な時局にぶつかつて往古の人の事蹟を想起し覺悟を新にする事も埋れんとする郷土誌が生きてくる事になるではないか亂筆御諒恕下さい。(皇紀二五九七・二・二二)

天皇陛下の御爲又なくなつた戦友達の仇を打つて皆さんの厚い御情の御心持に副ひたいと一生懸命に養生して居ります、皆さんも試験が始まつたでせう一心に勉強して先生の言はれる事お父さんお母さん又目上の人の言はれる事を良く守り偉い日本人になつて下さい、だん／＼寒くなりますから御體に氣をつけて新しい輝かしい新年をお迎へ下さい
十二月十七日

〇〇〇陸軍病院にて 白戸元亮

(二)

晩秋の御教育會長殿には益々御機嫌麗はしく在らせられ誠によろこばしく存じ上げ奉ります、さて此の度は池田勝雄事出征のところ誠に御懇篤なる御芳書並に多大の御饒別まで頂き只々恐縮いたしますと俱に感激を禁じ得ずこゝに謹んで御厚禮申上げます、教育會長殿よりかゝる御懇なる御厚志を賜りました事は本人の光榮は申すに及ばず當池田一家一族の名譽でございます、難有御芳情を早速精細に戦地の池田の許へ報告いたしました本人も幾かばかりかこの光榮に感激いたしました事でございませう、不幸只今は戦傷の身ではございますが全快の上は必ず再び第一線に立ちまして會長殿並に銃後の皆様の御厚志にお報い申上ぐべく存分の働きをいたさんものと更に固き決心をいたしますことと存じます。

家族の者といたしましても何卒してこの御厚志に背かぬやう充分な働きをして皆様の御期待に副ひ奉ることの出来ませう様日夜神々様にそれをのみ御祈り申して居る次第でございます、賜りました御芳書は勝雄一代に止まらず、池田家の家寶として永久にこの名譽を子孫にまでつたへる心算でございます。誠に不束なる者でございます故感謝の心を充分に申

上げつくし得ませぬことを残念に存じます、先は右謹しみて御禮まで申上げましてでございます
池田かちい

(三)

前略御許し下され度候此の度は主人出征に際し御丁寧なる御祝辭及び慰問の御芳志まで頂戴いたし身にあまる光榮と深く感謝いたし居り候、主人も帝國の軍人として出征せし事は誠に本望にて家族一同喜び居り候ところ不幸過日上海大場鎮戦闘の際名譽の戦死をいたし候事既に御承知の通にて私といたしましては今少しく御奉公申上げさせたりしとそれのみ心残り存じ居り候、今後は故笠井の妻として四人の子供等を守り立て、力強く過ごし亡夫の冥福を祈るべく固き覺悟相定め居り候、誠に失禮ながら取敢へず書中を以て御禮の御挨拶まで申上候
笠井美佐子

(四)

謹啓時下向寒の御益々御清榮の段大賀奉り候陳者去る〇月〇日愚息博光〇〇〇の〇〇〇〇兵として恩命を拜し應召本人は元より一家の名譽この事に存じ居り候處今回縣下九千の教職員並に三十萬の兒童を代表せられこの激勵文に接し且つ御懇情溢るゝ出征祝御恵與被下難有奉謝候、只今直ちに本人に復寫空輸を以て傳達致し諸賢の御芳志の萬分の一にも副ひ奉る様に送り置き候並に謹みて以書中御厚禮まで如斯に御座候、尙原書翰は家寶として永く鄭重に保存仕り子孫に相傳へ可申候 敬具
中村博光

(五)

拜啓段々とお寒くなつて参りました。貴會益々御繁榮の御事と存じます、小生此の度應召

に就て先日は多分なる御饒別を頂き誠に有り難く厚く御禮申上げます。去る九月十六日〇〇〇驛を官民多數の歡呼の聲に送られて出發し二十二日午後一時〇〇鐵道橋に上陸直ちに第一線に參加、二十七日〇〇〇にて我等二ヶ小隊は敵約二ヶ大隊に包圍體形を以て夜襲せられしも交戦一時間にして是を撃破し九死に一生を得それより數日後には彼の〇〇〇クリク敵前強行渡河戦に我等中隊は聯隊の先頭中隊の光榮を擔い全員勇躍渡河を決行せし敵の陣地極めて嚴重にして我等の前進を許さず、爲に中隊長は決死隊を募り小生等二十三名決死隊に參加是も數班に分ち小生敵トチカ爆撃班長を命ぜられ愈々十月六日午前六時出發早くもクリクまでに班員一名戦死せしも我等は前進に前進やう／＼クリクに着し舟に飛乗り今一息と言ふ所であつた敵の一齊射撃に敵との距離約二十米、目前に敵をながめ乍ら戦友は倒れ或は傷つき小生も左腕骨折貫通銃創を受け如何ともする事できず涙を吞んで伏してゐる事數時間、今尙當時の事を思ひ浮べ涙を禁ずる事も出来ませぬ幸にも小生の傷も経過よく今は殆ど治りましたが何しろ骨をいためられて居ります、軍醫殿のお話では今三四ヶ月位はかゝるとの事です、小生としては一日も早く全快し再び彼地に参り皆様の御後援に報いたい覺悟で居ります。時節柄貴會益々御發展を祈ります。
會長殿の御健康を祝して近況御報旁々御禮迄 草々
歩兵伍長 林 源 治

(六)

拜啓謹しみて一言申上げます。先達は有難き御祝文並に多大なる御心配を相受誠に有難く厚く御禮申上ます。貴官殿を始め御一同様に

御用務多端の折柄愈々御健在の段御よろこび申上げます。私共先般應召相受け出征の際には皆々様方始め全國民方々の感謝感激の聲に送られて勇ましく母國を出て勝たば生きて歸らじと堅い決心で征途につきまされた。任地到着〇〇上陸其の日より第一線に猛激戦を續けました。〇〇大クリク約一〇〇米前方〇〇〇南方に於て當中隊は相當の激戦致し敵前約一〇〇米に接近せし時既に戦死者十六名を出し何共筆舌には盡しきれません。

十月十八日夜第二大隊長殿より決死隊の命受け十九日の夜明方突撃實施の直前不幸にも敵弾にて負傷致し自分の任務貫徹出来ません事を誠に残念に存じます。十一月三日〇〇病院にて左腕切斷致しました。只今内地に後送〇〇病院にて療養致して居ります。然し北支曠野にも南支戰場にも平和が訪れ間もなく東洋永遠の平和を齎らす事を悦んで居る者です私共一日も早く全治致しまして第二の國民と相成り國家の爲に盡したい覺悟で御座居ます。誠に亂筆を以て失禮で御座居ます厚く御禮申上ぐる次第で御座居ます 敬具

上等兵 土屋 定 雄

(七)

拜啓先日は誠に有難い甘い菓子のお菓子の慰問品を戴き厚く御禮を申上げます。艦内にて乗員の喜びは一方ならず内地にてはとうてい想像が出来ぬ位です。年頭に當り神奈川縣中小學校生徒兒童御一同様の益々御壯健と御勉強の程を祈つて止みません。戰雲未だ晴れやらぬ異國の地征戰の途上にて私共も大元氣で十三年の新春を迎える事が出来ました。先は甚亂筆走り書の儘にて厚く御禮申上げます。

第〇艦隊第〇〇戦隊軍艦〇〇第一分隊 竹村駒男



時運に適應せる
女教員の誕生

本會は曩に尋常小學校本科正教員並に學校衛生婦養成講習會を企劃し高等女學校卒業者若しくは之れと同等以上の學力を有し身體健全志操堅實にして小學校教員の志望確實なるを募り約六ヶ月に亘り充分なる教養を與へ尋常小學校本科正教員の資格を有せしむると共に學校衛生婦としての知識技能をも習得させ以て學校看護婦を置き得ざる學校に其の配置方を出來得る限り斡旋し普く生徒兒童の健康保持増進に資せんとした時節柄頗る機を得たるものとして評判よく應募者百八十名を得嚴選した結果左記四十二名の優秀なる講習生を得て昨年十月一日女子師範學校に於て授業を開始し目下講習中であるが来る三月末日には尋常小學校本科正教員としても學校衛生婦としても立派な資格を有する是に一舉兩得の女教員が誕生する筈である。尚ほ開所式當日會長の訓辭を茲に掲げて本講習會開設の目的を一層明にする。

訓 辭

尋常小學校本科正教員並に學校衛生婦養成講習會入所ノ式ヲ舉グルニ當リ茲ニ所懷ノ一端ヲ述ブル機會ヲ得タルハ寔ニ欣幸トスル所デアラル

抑々本講習會ノ目的ハ識見高邁ニシテ至誠ニ燃エ温良貞淑ニシテ強健快活眞ニ教育者トシテ適任ナル者ヲ養成シ併セテ學校衛生婦トシテ充分ナル知識技能ヲ習得セシメ總テ縣下ノ小學校ニ配シ普通教育ノ進展向上ニ資スルハ勿論生徒兒童ノ保健衛生ニ一層留意シテ第二國民ノ體位向上ニ貢獻セントスルモノデアラル

現下我國國民體位ノ低下ハ識者ノ等シク憂慮スル所政府ハ

曩ニ保健社會省(厚生省)ノ新設ヲ企圖シ銳意之レガ向上ニ專念セラレツ、アリ此ノ時ニ當リ本會ノ企劃亦徒爾ニアラザルヲ信ズルノデアラル

諸子ハ今次ノ入所試験ニ克ク其ノ難關ヲ越エ既ニ其ノ學力ニ於テ身體ニ於テ將又人物ニ於テ優秀ナ者デアラル希クハ克ク教職員ノ指導ニ適ヒ益々切磋琢磨ノ功ヲ積ミ天晴優良ナル教育者トナリ上ハ 聖旨ニ應ヘ奉リ下ハ國民ノ期待ニ背カザランコトヲ望ム

一言以テ訓辭トス

講習員住所氏名 (イロハ順)

- 鎌倉郡鎌倉町二階堂三五七 飯島 靜
- 平塚市新宿七〇五 秦野 好枝
- 足柄下郡曾我村會我別所一九二 穂坂 しづ
- 沼津市上香吉田町二三五 友田 いそみ
- 平塚市新宿一九一七 千葉 芳子
- 横濱市中區戸部町五〇一八五 大場 順
- 三浦郡逗子町櫻山二一四〇 久保 園子
- 横濱市中區大橋町二〇二八 渡邊 信子
- 東京市世田ヶ谷區下代田町二二九 勝 俣 良恵
- 足柄下郡足柄村多古二二一 河野 綾子
- 横濱市磯子區原町二三 高浪 久子
- 平塚市平塚新宿一〇〇 高橋 さだ
- 足柄下郡上府中村西大友四七二 高梨 トシ子
- 鎌倉郡片瀬町二四二九 矢野 喜久子
- 横濱市神奈川區松ヶ丘八三三 松賀 一枝
- 足柄下郡上府中村高田一八〇 眞壁 テル
- 高座郡藤澤町鶴沼六六三 藤田 久江
- 横濱市中區杉山町一ノ一三 深津 しづ
- 津久井郡中野町中野一〇四六 伏見 喜久代
- 足柄下郡小田原町新玉町四ノ天一 小島 米子

- 愛甲郡下川入村五三七 小宮 富貴
- 三浦郡大楠町萩野一五七 遠藤 妙子
- 高座郡田名村イ號一八〇三 榎本 コウ
- 高座郡小田村芹澤一四一〇 秋津 ヨネ
- 横須賀市八幡久里濱四九二 赤崎 利子
- 横濱市中區山王町一ノ八 齋藤 百合
- 横濱市中區野庭町二四五 佐藤 楫子
- 横濱市中區天神町二ノ四八 佐藤 恵子
- 鎌倉郡深澤村梶原六九五 境 眞子
- 三浦郡浦賀町一津一二五二 齋藤 聰子
- 三浦郡初聲村和田三〇四四 菊地 ふさ
- 川崎市塚越五九 岩瀬 房枝
- 横濱市保土ヶ谷區和田町一八六 三村 年子
- 東京市中野區城山町二四 鹽脇 智恵子
- 平塚市桃濱町三四八八 清水 恒
- 横濱市神奈川區島越一 清水 秋枝
- 横濱市鶴見區東寺尾町二〇八三 志澤 フジ
- 足柄下郡下中村小船六六〇 平山 富久子
- 横濱市磯子區磯子町腰越二五五 森 伊キ
- 横濱市磯子區西根岸馬場町三二 菱山 春子
- 津久井郡島屋村一三〇九 杉山 愛
- 横須賀市長浦四八五 杉山 愛

教員共済會だより

- 診療手當支給調 金四百五十五圓五十錢 (十一月中支給)
 - 金四百〇四圓也 (三浦郡逗子校奥津野江外二十九名)
 - 計金八百五十九圓五十錢 (平塚市平塚第四校宮川信三外二十四名)
 - 累計金參千七百參拾貳圓也
 - 會員弔慰金支給調 金參百圓也 (十一月中支給)
 - 計金參百圓 (都筑郡都岡校山中寅吉外二名)
 - 累計金壹千六百圓也
 - 家族弔慰金支給調 金貳百七拾圓也 (十一月中支給)
 - 計金四百參拾圓也 (高座郡田名校松下重治養父一郎外二十六名)
 - 累計金壹千四百拾圓也
 - 災害見舞金支給 金貳拾圓也 (十二月中支給)
 - 計金貳拾圓也 (鎌倉郡瀬谷校三橋博)
 - 累計金壹百拾圓也
- 資 産 (昭和十二年十二月末日現在)
- 農工債 一六萬五千五百圓
 - 農工株 一六千三百九十一圓
 - 特別當座預金 一十三圓五十一錢
 - 當座預金 一、二二二圓九十四錢
 - 振替貯蓄預金 一、三三二圓八十七五錢
 - 貸付金 一、三三萬二千七百四十四圓六十七錢
 - 國債 一、二四萬四千五百十圓六十二錢
 - 信託預金 一、一十萬三千圓
 - 振替貯蓄基本預金 一、一十圓
 - 計金二十三萬五千五百七十七圓四十九錢

三浦郡教育會

三浦郡教育會
教員體育大會

三浦郡各小學校全職員を總動員して、此の非常時局に際し大いに汗をかいて、無邪氣に元氣に、半日を過して、以て熱と意氣を發揮し、體位向上の範を示さうとの郡教育會體育部の劃期的な計劃は愈々實現を見、十二月四日(土)午後一時より逗子小學校に於いて其の惠まれた體育施設と職員組織を其のまま利用して開催された。縣よりは田代視學佐藤體育主事、小幡坂井兩師範學校教諭、教育會よりは上泉會長加波田副會長福本體育部長以下幹部總出動の力の入れ方會員も徒歩でバスで、遠くはトラックを連ねて定刻に集る者二百九十五名、日が短い折柄全員を各種目に出動させる爲めに種目の周密な組合せと、其の運用が、本校職員を主體とする役員によつて次から次へと滑らかに行はれた。會員整列、國旗掲揚、上泉會長の非常時意識高揚の開會の辭、皇居遙拜神宮觀願も厳肅に行はれ、福本體育部長挨拶の次に、全員三百餘名のラヂオ體操、男會員の綱引勇猛壯麗なバスの掛聲、皆がへとへと疲れきつて引揚ると代つて、女會員六十四名の唱歌行進遊戯、舟の旅、友さしの和やかな氣分を漂はせた。終つて競技に入り、男有志の五十米、指定選手は百米、女全體の轉球競争、各部會選手は六十米繼走(此の中には神宮競技のヒーロー浦賀の松矢選手も交つてゐた)。一方庭球は開成中學コートで卓球は講堂で開始され、籠球排球は幾つものコートで同時に行はれた。終つて左記指定選手は跳箱鐵棒による巧緻運動及走高跳が満場觀視の中に展開されて、本郡體操界の多彩なるを思はせた。

青木、高橋(逗子)、川瀬、黒柳(葉山)、西村、長島(大楠)、若命、福本、藤平(長井)、相原、青池(三崎)松矢(浦賀)、岩野(初聲)、三浦(武山)

終つて男會員全部参加して順送球を行ひ、小幡女子師範教諭の指揮で全員は建國體操に最後の馬力をかけて、閉會式に移つた。時に四時四十分

懸賞論文募集

一、題

「東洋永遠の平和確立の爲特に我國の執るべき教育政策並に新興支那政府に要望すべき教育策」

東洋永遠の平和を確立し世界人類の福祉を増進せんとする我國の國策は確固不拔である。日清日露の戦役を始めとして今次の支那事變に於ける我國出師の目的も終始一貫この國策を達成し日本民族の大使命を果さん爲である。天祐は常に正義の我にあり、感激の日章旗は既に抗日の首都南京に燦として輝き北支中支の民衆亦皇軍の恩威に悦服し東洋民族本然の姿に復らんとして居る。然るに國民政府は未だ抗日の夢醒めず漫りに抗戦を策し内民人塗炭の苦しみを察せず外東亞全局の和平を顧みる所なし依つて我國は已むなく蔣政權を否認し天意に基く更生支那建設に協力せんとして過般重大なる聲明を中外に發表せられたのである。此の機に際し東洋永遠の平和確立の爲特に我國として執るべき將來の教育政策、當に新興の途上に登らんとする支那今後の教育策の攻究は實に喫緊の重大問題である、依つて本會は廣く識者の意見を徴し以てこれを要略に進言せんとするものである。

二、應募規定

イ、四百字詰三十枚以内 ロ、文體隨意 ハ、締切 昭和十三年三月末日
ニ、發表 昭和十三年五月末日 ホ、應募者 制限ナシ

三、審査委員 追テ發表

四、選 賞

一等 一人 賞金百圓 二等 一人 賞金五十圓 三等 三人 賞金二十圓ツ、

神奈川縣教育會

編輯後記

御稔威燦として輝やく戦捷の新春を迎へたことの歡喜は皇國日本に生れたものゝみが味ふことの出来る感激であります。征途萬里、陸に海に空に我が皇軍は目醒しい活動を續けられてゐます。此の未曾有の國難に處し、自ら長き苦難に堪へ、常に新しき進路を開拓し、永遠に盡きざる底力を藏する頼母しき國民の養成こそ我々教育者の双肩にかゝる重大使命でなければなりません。私達は誠私奉公、いよく以て教育報國のその道に邁進せしむられませぬ。記念すべき輝やかしい新春の劈頭に教育會長の私達への金文字はまことに我々教育者の覺悟を新にすべき羅針盤的玉言であります。縣立秦野中學校長中谷英真先生の「支那事變の意義」は堂々二十五枚に亘る明快なる大論文、一讀以て今回事變に對する十分なる認識を得られることと存じます。御寄稿下さいました研究物はまことに眞摯な實際的なもの、何れもよみごたへのある充實したものばかりです。ゆつくり御愛讀の程を願ひます。兒童成績欄は戦捷の春に因むものを掲載いたしました。たゞ御投稿下さいました學校の少なかつたことが遺憾であります。酷寒の砌、益々御壯健に、そして斯道御精進の程をお祈りいたします。

昭和十三年一月廿五日印刷
昭和十三年一月廿五日發行
神奈川縣教育會代表者
櫻井 論
印刷人 鈴木 清 五
印刷所 横濱 活版 會
發行所 神奈川縣教育會

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十三年一月二十五日發行(毎月廿五日發行) 第九十三號